

第44回 全道造形教育研究大会釧路大会

# 心ときめく 創造の喜びを求めて



1994年7月27日・28日  
釧路市立柏木小学校  
ひぶな幼稚園  
釧路市生涯学習センター

# 第44回 全道造形教育研究大会

## 釧路大会

北海道造形教育連盟研究主題

自らの心をより豊かに拓く  
造形学習の在り方

釧路大会研究主題

心ときめく、創造の喜びを求めて

1994年7月27日(水)～28日(木)

釧路市立柏木小学校

ひぶな幼稚園

釧路市生涯学習センター

# 目 次

挨拶	3
祝辞	5
日程	9
会場案内図	10
開会式次第	12
閉会式次第	12
記念講演	13
研究概要	14
北海道造形教育連盟研究主題	14
釧路大会研究主題	16
公開授業一覧	21
学習活動案	22
分科会一覧	32
分科会提言	33
北海道造形教育連盟規約	46
北海道造形教育連盟名簿	47
全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧	48
釧路大会役員一覧	50

# 釧路大会に寄せて



北海道造形教育連盟委員長 鹿嶋 健

どこまでも広がる湿原の中をゆったりと川が流れ、爽な風が渡っていきます。

第44回全道造形教育大会が、霧の街・ロマンの街、彫刻の街、釧路市で開催されますことを皆様とともに心から喜び合いたいと思います。

本大会の開催に当たり、日夜、主題研究とその準備にご努力いただきました運営委員長稲船先生はじめ、釧路市図工・美術教育研究会の先生方に連盟を代表して心からお礼申し上げます。また、ご後援くださいました北海道教育委員会、釧路教育局、釧路市教育委員会、釧路市各教育関係諸団体の皆様にも厚く感謝申し上げます。

今日、造形教育に求められているものは、生涯にわたって芸術文化に親しみ、心豊かな生活を築くとともに、豊かな感性を培い、柔軟な発想力や想像力、鋭敏な直感力を基盤とした創造性や基礎的な造形能力を育成することです。

そのために、一人一人の子供の個性や創造性を伸ばし、その子らしい造形的な創造活動を支援していく授業の展開を図ることが重要な課題です。

この意味で釧路大会に掲げられました研究主題「心ときめく、創造の喜びを求めて」はまことに時宜を得、的を得たものと考えます。

本連盟は、創立以来、一貫して「豊かな人間形成をめざす造形教育の在り方」を追及してまいりました。私たちはこの輝かしい伝統に確信を持ち、

更に、新しい時代に対応する造形教育の在り方を究明していかなければなりません。

釧路大会の成果に心から期待を寄せるとともに皆様のご活躍をお願い申し上げ、私の挨拶といたします。



# 「霧とロマンの都、 釧路によろこそ」



第44回全道造形教育研究大会

運営委員長 稲船正男

阿寒連峰を背に広大な湿原を抱く釧路は、21世紀に向け道東の拠点となる多くの要素を密めている港都市です。また道東は、根室・網走管内の一部を含めた原始の森や湖沼がいたるところに点在し北欧的な魅力がいっぱいの自然と人間が共生するところでもあります。第44回全道造形教育研究大会の会場になります柏木小学校は「春採湖」と太平洋に隣接し自然環境に恵まれた環境にあり、全道からご参加の皆様を心より歓迎申し上げます。昭和56年の第31回大会の開催以来13年振りでの釧路大会ですが、釧路の造形教育も遅々とはしながら躍動し続けて参りました。「心ときめく」の想いは、児童・生徒は勿論、教師も共に培われてこそ、造形教育の道標となるべきものと努力して参った次第です。

先進的な他地区から比べれば、洗練された巧緻性は若干、幼ないかも知れませんが、一人ひとりの子ども達の「美」に向う想いは深く、造形教育への先生方の確かな手ごたえが感じられるよう研鑽しております。

今日、地球規模での環境教育が課題となっており、釧路も昨年の「ラムサール国際会議」を期に、一層力を入れております。自然を愛し、自然と共に生きる中から、素直に美を感受する感性の培いも人としての生きがいに通じる造形教育の大きな課題であります。本大会では、それらの課題を多

少なりともお汲みとりいただき、今後の造形教育の研修の糧にしてくだされれば幸いと存じます。

最後になりましたが、ご指導ご後援いただきました、北海道教育委員会、釧路市教育委員会、各教育関係団体の皆様や、直接本大会運営のためご尽力・ご協力いただきました皆様に厚く感謝申し上げますとともに、全道各地からご参会される皆様の心からの歓迎を申し上げ、挨拶とさせていただきます。



## 釧路大会の成果を期待して



北海道教育庁釧路教育局長 切石城司

第44回全道造形教育研究大会が、全道各地から多数の先生方をお迎えし、ここ釧路市において盛大に開催されますことは誠に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

長い歴史をもつ造形教育連盟は、発足以来、幼児、児童生徒の豊かな人格形成を担う造形教育の重要性を認識し、それぞれの時期における造形教育の課題を的確に把握し、指導内容及び指導方法の改善・充実に取り組まれるとともに、教師自らが造形に対する感性を磨き、技術の向上を図るなど、大きな成果を挙げてこられました。このように、本道の造形教育の発展・充実のために大きな役割を果たしてこられました先生方の御努力に、深く敬意を表するものであります。

さて、これからの学校教育では、生涯学習の基礎を培うという観点に立ち、基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図るとともに、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図ることが大切であります。図画工作（美術）教育におきましても、造形的な創造活動を一層重視し、創造性の基礎としての表現製作の能力を高めるとともに、情操を豊かにする指導の充実を図ることが求められております。

そのためには、子供たちが、自らの思いや願いを持って主体的に造形活動に取り組み、成就感や満足感を味わうことが大切であり、教師はそのよ

うな学習活動を支援していく姿勢や役割を持つことが重要となります。

本研究大会が、「心ときめく、創造の喜びを求めて」を研究主題に掲げ、造形教育の実践活動に励んでおられる幼稚園から高等学校までの先生方が一堂に会し、公開授業や研究発表をもとに研究協議を深められますことは、誠に時宜を得たものであります。本研究大会の成果が広く紹介され、北海道の造形教育の一層の充実に大きく寄与することを期待するものであります。

最後になりましたが、本研究大会の開催に当たって御努力いただきました関係者の皆様方に深く感謝を申し上げますとともに、実り多い研究大会になることを心から祈念して、お祝いの言葉といたします。



## 創造の喜びを促す造形教育に 期待して



釧路市教育委員会

教育長 角田 憲治

自然の宝庫「釧路湿原」を誇る当釧路市で、第44回全道造形教育研究大会が開催されますことは、釧路市はもとより、会場校となりました柏木小学校にとりましても誠に光栄であり、喜ばしい限りでございます。関係各位に深く感謝いたしますとともに全道各地からご参会の皆様方を心より歓迎申し上げます。

さて、「21世紀からの留学生」といわれる子ども達が、これからの社会の変化に対応していくため特に必要とされている資質・能力は、創造する力や自ら考え・表現し・行動する力であると言われております。

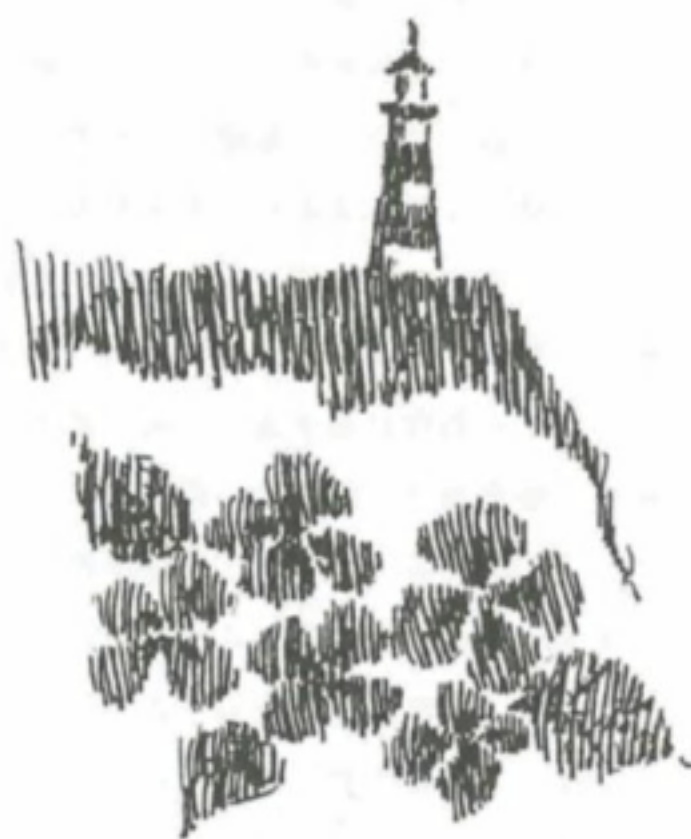
このような折り、「心ときめく、創造の喜びを求めて」を研究主題に全道各地の研究実践を持ち寄り討議が深められますことは、正に時宜を得たものであり、今日の教育の最重要課題である「豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成」という中核の精神を大きく発展させるものと確信いたします。

造形作品を生み出す活動は五感を統合した創造のプロセスそのものであり「美的体験」を生き生きと味わわせることが、美しいものを美しいと感じる心、美しいものを作り上げたいと思う心など、豊かな情操を養い、更なる創作意欲を育むのであります。

こうした造形活動の教育的価値を考えると、

子どもの生活体験に等身大で迫る題材をもって主体的な表現活動を促し、「心を育てる造形教育」の推進が一層強く求められます。

生涯学習宣言都市・釧路市といたしましても、「情操豊かで個性と潤いのあるまちづくり」に力を注いでおり、生涯学習センターのアートギャラリーの活用を図るとともに、平成10年にオープンが予定されている仮称・北海道立釧路芸術館に夢を膨らませているところでございます。本研究大会の成功と、子ども達の創造力と表現力を培う造形教育の益々の発展をご祈念申し上げ、ごあいさついたします。



## 創造する喜びを体験しながら、 豊かな情操を育てる造形教育を



釧路管内町村教育委員会連絡協議会  
教育長部会長 相馬政雄

「心ときめく、創造の喜びを求めて」を研究主題として、「子ども自ら主体的な表現活動をするための授業の構築のあり方」「新しい学力観に基づいた評価のあり方」「地域の特性を生かした活動」の三本を柱に『第44回全道造形教育研究大会 釧路大会』が、自然の造形美あふれる国立公園「釧路湿原」の広がる釧路市で、春採湖に面する柏木小学校、釧路市を一望できる生涯学習センターを会場に開催されることは釧路教育界にとってたいへん名誉なことであり、心より歓迎申し上げます。釧路大会の成功を確信しております。

小中学校の新しい教育課程では特に、「心の教育」「個性教育」「自己教育力」の育成に重点がおかれ、『社会の変化に主体的に対応できる能力の育成や創造力の基礎を培い、自ら学ぶ意欲を高めること』を指針として指導がなされるようになっていますが、「図画工作」「美術」の教科の目標も、表現および鑑賞の活動を通して、造形的な創造活動の能力を育てるとともに表現や創造の喜びを味わわせ、豊かな情操を養うことをめざすようになりましたが、「生涯学習」の観点からも児童生徒の「創造性」を伸ばすことが学校教育に課せられた大きな課題となっています。このような生涯学習のねらいから図画工作・美術の指導の重要性が今まで以上に認識され、人間形成の上でこの教科の果たす役割りは今までかつてなかったく

らい大きいものになっています。図画工作・美術科では、その活動が具体的であり、全身・全感覚を働かせるもので、児童生徒の情意の望ましい発達を図る上でも大切な役割りを果たすとともに芸術を創造し、それを大切にする心の育成にもつながるものといえます。そういう意味からもこの教科の重要性が再認識されたと言えます。

今回の釧路大会がきっかけとなり、子どもたちがものをつくりだす喜びを体験しつつ、個性豊かな創造性を伸ばす実践と研究がよりいっそう深まることを期待しています。





## 歓迎のことば



釧路市立柏木小学校長 坂下 敦子

太平洋から押し寄せるようにわく霧のヴェールに包まれることもしばしばある釧路市。その中心部に位置する春採湖は、マガモやバン等の水鳥をはじめ、野鳥も飛来し、天然記念物のヒブナも生息しています。湖畔には、四季折々可憐な姿を見せる野の花の種類も多く自然いっぱいの環境です。この豊かな自然に恵まれた春採湖を望む本校を第一日目の会場として第44回全道造形研究大会が開催されますことを誠に喜ばしく思いますとともに、全道各地からご参会されます皆様を子供、教師、父母共々心から歓迎申し上げます。

本校は、昭和30年に開校し、今年は40年の節目を迎えますが、平成2年に校舎の老朽化にともない改築されました。規模は小さいが、ワークスペースや子供が名づけたオーロラホール（多目的ホール）を備え、外観は湖にマッチしており「ヨーロッパ風の建物に見える」と言われ、朝・昼・夕に鳴り響く釣鐘は、本校のシンボルでもあります。

また、博物館や埋蔵センター、科学館、生涯学習センター（まなぼっと）、図書館等、釧路市の文化ゾーンの中にあり、恵まれた教育環境です。

このように恵まれた自然環境や教育環境を生かし、本年度は「子供一人一人の個性を伸ばし、豊かな表現力を育てる教育の推進」を学校課題とし、体験的な活動を生かしながら主体的に課題を解決できる能力や、豊かな感じ方や物の見方、考え方のできる感性を育てることを願い教育活動を進めています。平成5、6年度は、環境教育にも視点

を当て、特に自然との触れ合いを通して子供の感受性を刺激し、子供一人一人のよさを生かして、豊かな創造力を表現力を育てるとともに環境を大切に作る心などを育てることを願いささやかではありますが、教育実践に取り組んでいます。

ラムサール会議に来日した世界各国の人々が、早朝散策した春採湖畔の木道を歩み味わう自然は、造形研究大会の雰囲気盛り上げてくれるものと思います。

終わりに、本研究大会が大きな成果を上げ、実りあるものになりますよう心からご祈念申し上げ、歓迎のことばといたします。





北海道造形教育連盟研究主題

自らの心をより豊かに拓く造形学習の在り方  
～一人一人が造形的表現活動の喜びを実感するために～

第44回

全道造形教育研究大会 釧路大会

釧路大会研究主題

「心ときめく、創造の喜びを求めて」

会 期 平成6年7月27日（水）・28日（木）

会 場 釧路市立柏木小学校・ひぶな幼稚園・釧路市生涯学習センター

日 程 ◎大会第1日 7月27日（水） 釧路市立柏木小学校・ひぶな幼稚園

8:30~9:30	10:20	10:40	11:20	11:30	12:30	13:30	16:00	18:00	20:00
受付	公開授業	移動	開会式	移動	分科会1 (授業)	昼食	分科会2 (提言)	移動	歓迎 レセプション

◎大会第2日 7月28日（木） 釧路市生涯学習センター

9:00~9:30	10:00	10:10	11:30	12:00
受付	絵画鑑賞	移動	記念講演	閉会式

○絵画鑑賞は  
1F～「児童・生徒作品展」  
世界児童画展、ラムサール絵画展等  
3F～三重県立美術館所蔵作品による  
「昭和・戦後の洋画展」の予定です。  
○記念講演は  
2F～多目的ホールが会場です。

記念講演 演題 「炎上した太平洋のノアの箱船」

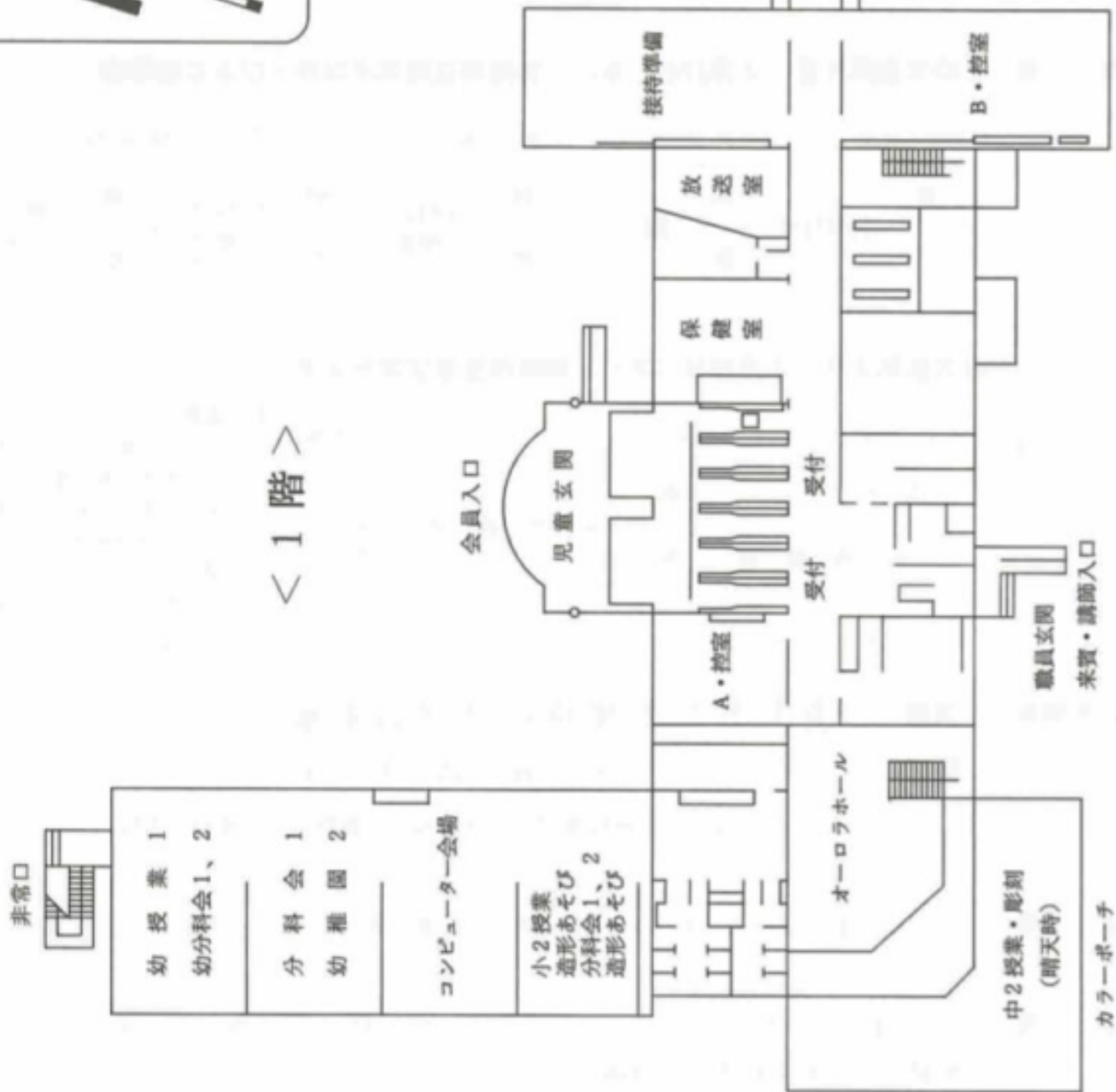
講師 幸丸政明氏

現 環境庁自然保護局東北地域国立公園野生生物事務所所長

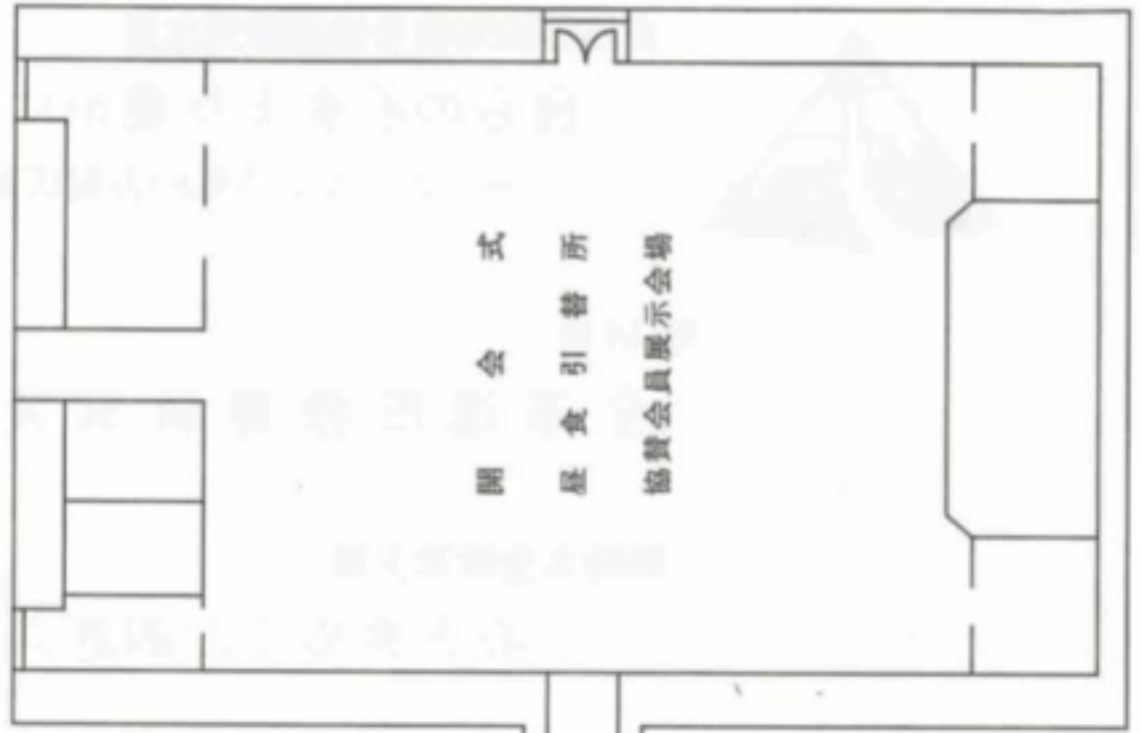
主 催 北海道造形教育連盟・釧路造形教育研究会

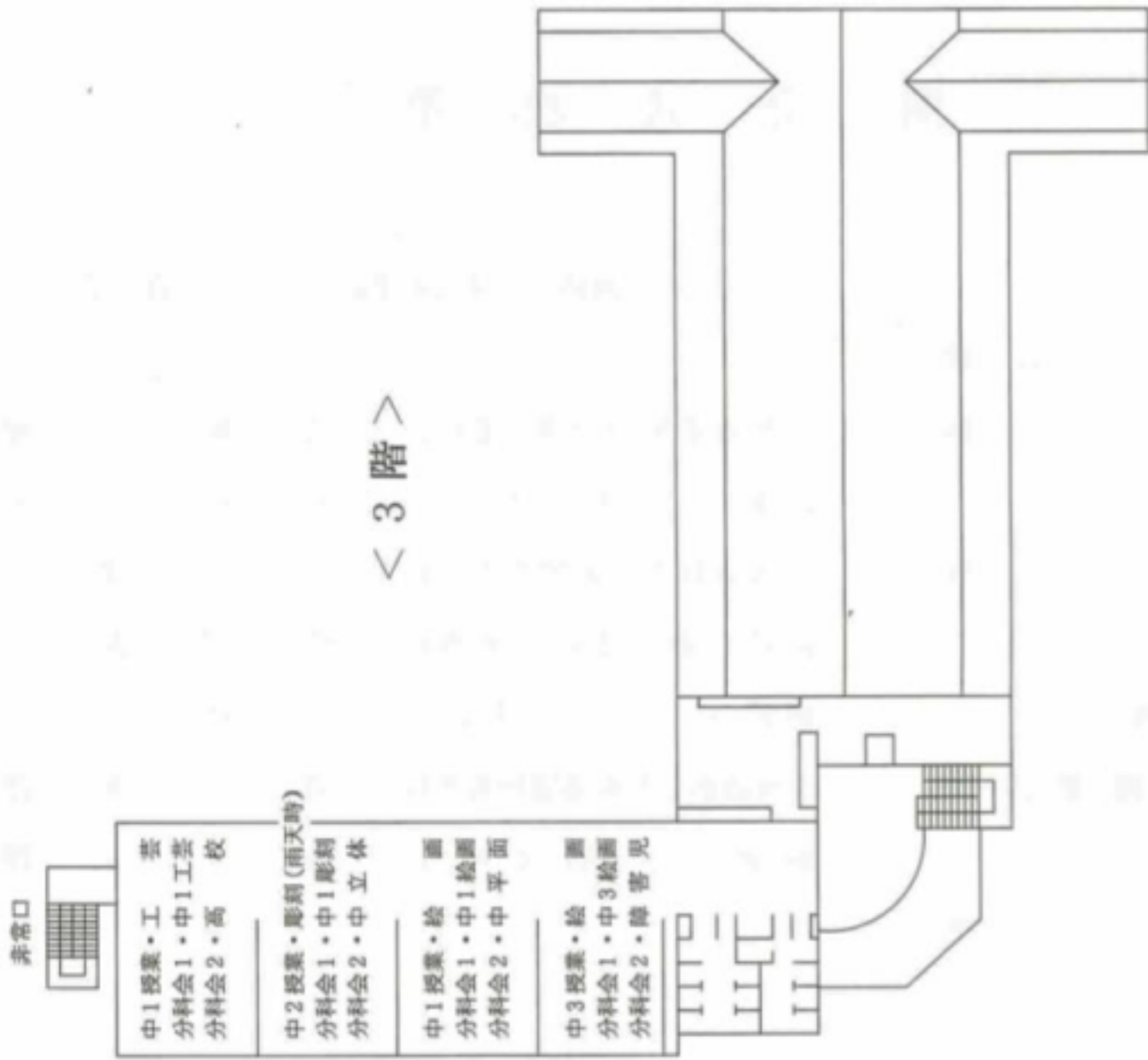
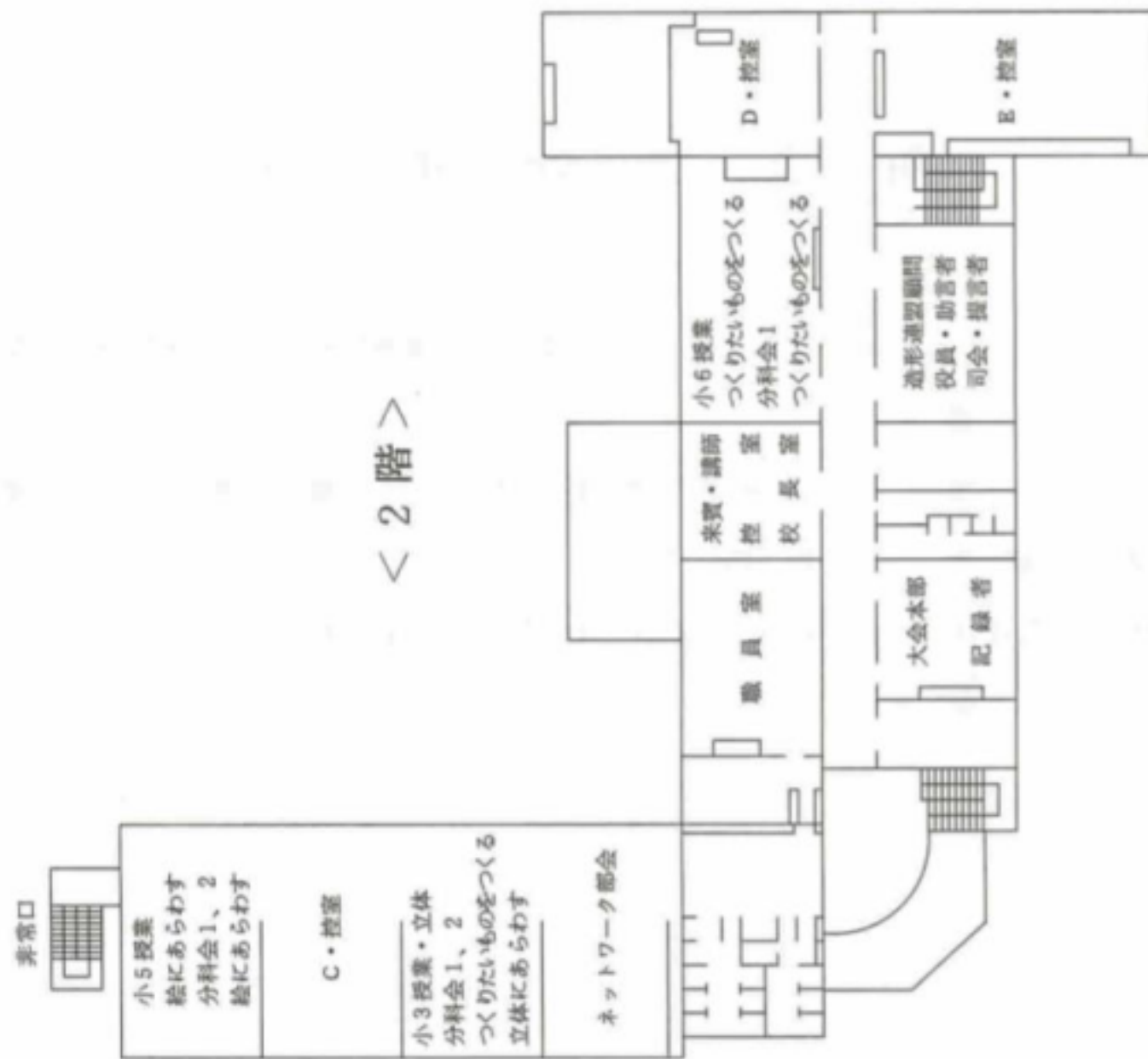
後 援 北海道教育委員会・釧路市教育委員会  
釧路管内町村教育委員会連絡協議会・釧路市小中学校校長会  
釧路校長会・釧路市私立幼稚園連合会

# 会場案内図



< 1 階 >





## 開 会 式 次 第

司会 釧路大会運営副委員長 大 森 正 明

1. 開 会 の 言 葉
2. 挨 拶 北海道造形教育連盟委員長 鹿 嶋 健  
釧路大会運営委員長 稲 船 正 男
3. 祝 辞 北海道教育庁釧路教育局長 切 石 城 司  
釧路市教育委員会教育長 角 田 憲 治
4. 来 賓 紹 介 釧路大会運営副委員長 三 枝 佑 嘉
5. 研 究 概 要 説 明 北海道造形教育連盟研究部長 菅 原 清 貴  
釧路大会研究部長 森 富 輝
6. 閉 会 の 言 葉

---

## 閉 会 式 次 第

司会 釧路大会事務局長 中 村 紀 雄

1. 開 会 の 言 葉
2. 挨 拶 北海道造形連盟委員長 鹿 嶋 健
3. 連 盟 旗 引 継 ぎ 釧路市 — 千 歳 市
4. 次 期 開 催 地 代 表 挨 拶 石 狩 造 形 教 育 連 盟 和 田 弘
5. 閉 会 の 言 葉

# 記念講演

講演テーマ 炎上した太平洋のノアの箱船  
ーガラパゴス諸島イサペラ島の火災影響調査に参加してー

講師 幸丸 政明 氏

略 歴

昭和20年2月8日生（49歳）  
昭和43年3月 東京大学農学部林学科卒業  
昭和48年3月 東京大学農学系大学院修了  
昭和48年4月 環境庁入庁  
昭和48年10月 環境庁自然保護局富士箱根伊豆国立公園管理事務所  
昭和50年10月 同 霧島屋久国立公園屋久島管理員事務所  
昭和54年8月 同 企画調整課自然環境調査室  
昭和58年6月 同 計画課  
昭和61年4月 同 野生生物課野生生物専門官  
昭和63年7月 同 企画調整自然保護専門官  
平成元年10月 同 釧路湿原国立公園管理事務所総括湿原管理官  
平成4年10月 同 環境庁自然保護局東北地域国立公園野生生物事務所所長  
現在に至る



## 記念講演次第

司会 釧路大会運営委員 中島 欣也

1. 開会の言葉
2. 講師紹介 釧路大会運営委員長 稲船 正男
3. 講演
4. 謝辞 釧路大会運営副委員長 柳 悟
5. 閉会の言葉

## 自らの心をより豊かに拓く造形学習の在り方

— 一人一人が造形的表現活動の喜びを実感するために —

北海道造形教育連盟研究部長 菅原清貴  
(札幌市立三角山小学校)

### 1. はじめに

あと5年と半年で1900年代は終わります。人類が新たな秩序を模索し『共生』の可能性を思考錯誤している時です。そこでは、『豊かさ』の概念を大きく転換しなくてはならない先進国と物質的豊かさを追い求める発展途上国とが、21世紀へむけて走り・転び・歩いています。

地球規模の大変革期を迎え、わが国においてもこれまでの大量消費の飽食社会から精神的豊かさを模索する時代へのシフトがはじまっています。

つまり、知的・文化的生産能力の高い、個性的で創造的な社会へと変換しようとしています。ここでは、感性豊かな『潤いのある人間』、創造性に満ちた『豊かな人間』であることが求められています。

この変化に対応すべく私たち教師は、教育改革・授業改善の取り組みを前進させようと日常奮闘しているわけです。

さてその成果はどうでしょう。教科書中心で教師主導型の授業から、子どもの思考や活動を大切にしたい授業づくりが前進しているのでしょうか。身近な体験の中から実感を大切に旺盛な活動を子ども自らがつくりあげていく学習が展開されているのでしょうか。

私たちは、21世紀の土台をつくる人間を育てています。そして、教師もその子どもたちから多くのものを学び人間的な成長をしたいと望んでいます。そのためにも、日常の授業や学校生活が時代の大きな流れの中に取り残されることのないように、一層の努力を必要とされています。

『魅力ある場』としての造形学習が必要です。

### 2. 魂が躍動する『魅力の場』としての造形学習

『心を豊かに拓く力』は、本来子ども一人一人に内在するものであると考えています。その力を後ろから後押ししてあげる（支援）のが教師の任務でしょう。つまり知識や技能を授けて報酬を得る職業的教師観から『開発助成観』を持った教師像を確立する必要があります。しかし、ここではすべて子どもに委ねるというのではなく、題材に対する子どもの願いや実態を踏まえ、心を豊かに拓きたくなる『魅力の場』を教材の研究を通して設定していくことが重要だと思います。

子どもは、自ら「やりたい・やろう・やりとげよう・できた」という意図実現までの意志と努力の流れの中で達成観や成就観を持っていきます。

その腹の底から沸き上がるような旺盛な『やる気』こそが質の高い創造的な造形活動を生み出す根源にあると思います。

私たちは、子どもが与えられた美意識ではなく自ら獲得した美的感覚を持ち、五感を通して感覚を鋭く磨いていくことのできる主体を望みます。

低学年の造形遊びで、地域の採石場の石を島にみたて、『島島ワールド』という題材を実践した時のことです。石が島に見えるヒントが一つありました。手を丸め小さな穴をつくり覗きます。すると望遠鏡のように眺められます。その「手望遠鏡」で石（比較的大きな石）を眺めると飛行機から島を見ているように見えるのです。「あっ！先生島に見える」と歓喜します。島と島をつなげる線遊びの開始です。枝でつなげて橋になったり、木の実の種がクラゲに変身したり、子どもの柔軟な思考が爆発しました。

子どもと教師の魂の色  
(長谷川傳先生の言葉)  
が鮮明になる『魅力ある授業』改善の取り組みをさらにすすめましょう。

### 3. 研究内容

副主題において『喜びを実感する』とあります。授業に至る前・授業の過程・授業後すべてにおいて、子どもの表現活動が自在に展開されそこでのプロセスを大切に結果から(作品だけとは限らない)次の意欲がさらに連続していく活動が求められます。その活動の中で喜びが実感でき、自分なりの感性が豊かに育っていくものでなくてはなりません。

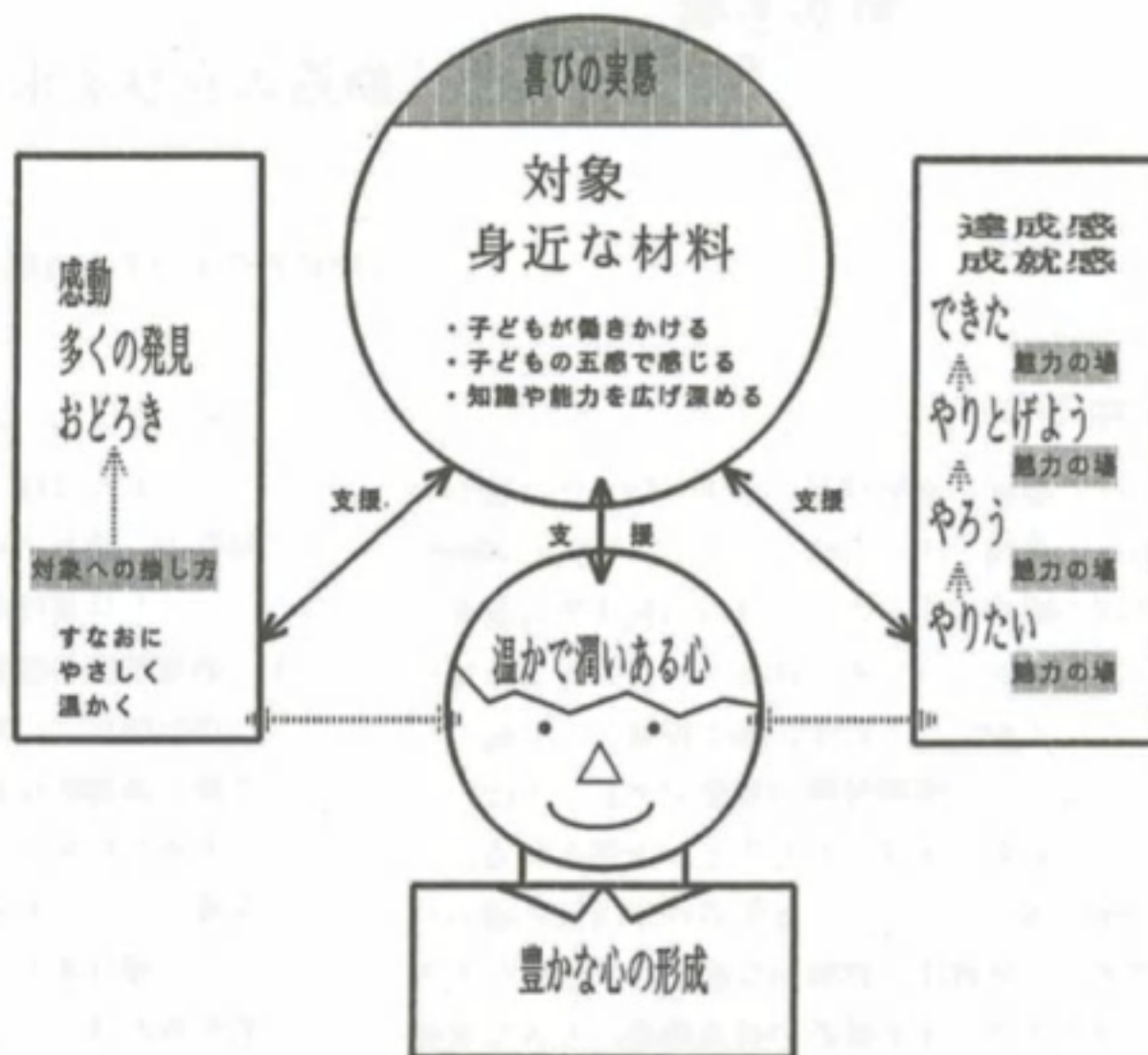
そこでの教師の支援も大切ですが、子ども自身が困難を克服する意志の力や課題に対しての意欲的な姿勢も重要です。

さらに、対象に対して素直で優しくそして温かく接し、それらに感動する心を育てることも大切です。この人間形成としての『教育美術』とArtとしての『美術教育』をバランスさせながら展開していくことが望まれます。

ここで北海道造形教育連盟の研究課題として、具体的追求点をあげます。

1. 豊かな心とたくましさを育てる魅力ある授業の構築の中で造形教育の役割を追求する。
2. 基礎・基本の重視と個性を生かす教育の調和的な達成をどう実現させるか。
3. 自分なりの美意識を持てたり、造形活動が生活の中に息づいたりするなど生涯学習の中での価値の追求。
4. 北の自然や人間の暮らしから生まれる独創的な造形教育の追求。

これらの追求点を通して、子どもから何を学ん



でいくのかを明らかにしていく謙虚な教師の姿勢が、一人一人の子どもの心をより豊かに拓く造形学習のヒントのように思います。

### 4. おわりに

混沌とした中から21世紀の希望の糧を探っています。教室の子どもたちに、輝く未来を見せてあげなくてはなりません。直面する地球的規模の難題は人間が作りだした怪物です。これを打破し未来を保障する仕事は、人間にしかなし得ないことです。そのキーワードが、創造性・豊かさ・温かな心等…であるならば教育の果たす役割は大きいのです。

造形教育が果たす役割も当然大きいはずですが。子どもの数だけ答えがある…『自分色が答え』の教科、それが造形教育の大きな価値でしょう。

その自分色が魂の色にまで昇華させることが私たちの仕事です。いや私たち教師も含めて、子どもを取り囲む自然や人間そして多くの造形材料の力なのです。

釧路色の造形活動の中で、自分色に輝く子どもの姿を期待します。



## 研究主題

### 「心ときめく、創造の喜びを求めて」

釧路大会実行委員会研究部長 森 富輝

#### I はじめに

ここ数年の世界情勢の変化の早さには驚かされる。東西ドイツの統合、ソビエト連邦の解体、中国の経済改革、南アフリカの民主的な選挙など、どれをとっても10年前には予想もできなかったことが、ここ数年の間で現実として起こっている。この世界情勢の変化のスピードは、これからも更に加速されることが予想される。

我が国においても、近年の科学技術の進歩や経済力の発展は、物質的な面で社会生活を大きく向上させ、産業構造や就業構造に大きな変化をもたらした。このような社会変化は、情報化・国際化・高齢化などの新しい波と共に、人々の生活をめまぐるしく変化させ、大きな戸惑いを感じさせる結果となった。このような社会情勢の中で、私達は「人間にとって真に豊かな生活とは何か。」を見出し、それを実現するために「どのように生きていくか。」を探ることが重要な課題になってきた。

#### II 学校教育と造形教育に求められているもの

##### (1) 学校教育に求められているもの

これまでの学校教育では、知識や技能を修得させることに大きなウエートが置かれてきた。その結果、日本人はものまねは旨いが新しいものがつくれないという欠点を生んだ。これからの急激な社会変化は、多様な価値観を生み出すことと考えられる。このような社会の中で、真に豊かな生活を営むためには、指示待ちの受け身的な人間であってはならない。自分にとって何が必要であり、それを得るためにはどう行動すべきであるか、すべて主体的に考え、判断し、行動できる創造的な

人間であることが必要である。従って、これからの教育には、自ら学ぶ意欲や、思考力、判断力、表現力などを重視する新しい学力観に立った学習指導が求められていると言える。

##### (2) 造形教育の役割

造形教育の目標は、子ども一人一人の造形活動の基礎的な能力を育てながら、表現の喜びを味わわせ、その活動を通して豊かな情操を養うことにある。これは、自らの個性を確立し、伸ばす上で極めて重要な意義がある。造形教育は子どもの主体的な活動がなければ成り立たない学習である。逆に言えば、造形教育ほど子どもの主体性を伸ばせる教育はないと言える。造形活動のほとんどは、与えられた課題（もしくは自分で見つけた課題）に対して、自分の創造性を生かし、試行錯誤を繰り返しながら、ものをつくりあげていく活動である。このような活動を繰り返す中で、子どもは自然に自分というものを見つけ、自分を表現する喜びを感じることができるようになり、同時に他の子どもの表現を認められる心やさしい人間に育つことができると考えられる。従って、これからの社会に求められている、予想外の出来事に対しても柔軟に思考でき、的確に判断ができる、主体的で創造的な人間を育成するために、造形教育は重要な役割を果たすと考えられるのである。しかし、特に中学校教育の中では、授業時数が削減されつつあり、造形教育が果たすべき役割を遂行することが困難な状況がある。我々は、様々な思考錯誤を繰り返しながら、造形教育の目的を達成できるよう、全力で取り組まなければならない。

### Ⅲ 造形教育研究大会の流れ

#### (1) 釧路大会の流れ

釧路での造形教育研究大会は、第5回から数えて三度目の開催となり、造形教育の研究に長い歴史を持っている。前回の第31回大会では、「創り出す心をよびおこす造形教育」を研究主題においた。この大会での研究成果として、以下の3点があげられる。

- ① 造形活動の基礎を「柔軟な感受性、豊かな創造力、自由な発想、美しさに対する直観力、造形の基礎的スキルと知識理解」と押さえられることができた。
- ② 造形活動の喜びを味わわせるためには、発達に応じた題材を用意し、表現のための基礎的な技術の指導と適切な助言が重要であることが確かめられた。
- ③ 造形活動を支える基盤は、子どもと子ども、子どもと教師の信頼と連帯感であり、このような好ましい人間関係の中で、努力しながら造形活動を行い、その結果得られた成就感が、次の造形活動への意欲につながることを確かめられた。

#### (2) 前回の旭川大会での成果

前回の旭川大会では、「思いを温め、心はずませ、創る喜びを」を研究主題として、研究に取り組んだ。本大会では、造形教育の目的を「心豊かな生活を築くための生きて働く力の育成」と押さえ、そのための課題として一人一人の子どもの個性や創造性を伸ばす授業の構築、子どもらしい造形的な創造活動の援助の工夫と考えた。具体的には、学ぶ喜びや表現する楽しさを十分味わわせることと、指導と評価の一体化の2点に置いた。このような課題から、一人一人の表現欲求や願いを十分満足させる造形活動を通して、子どもらしい想像力を働かせた創造的な表現活動の喜びを十分味わわせる授業を構築することをねらいとして研究を進めた。その結果、子どもは本来、素直にいろいろなものに交わり、感

じ、考え、試み、夢を描くものであり、子ども一人一人が心はずませて活動できるように教師が支援していくことであることが理解された。また、大会当日は、子どもの夢やねがいを実現するための緻密な指導計画と適切な教師の支援の姿がみられたと同時に、旭川のオリジナリティーを感じる独創的な教材の開発もありすばらしい大会であった。

#### (3) 平成6年度北海道造形教育連盟研究主題

北海道造形連盟研究部では、平成5年度から引き続き「自らの心をより豊かに拓く造形学習の在り方」を研究主題におき、研究を進めている。現在求められている人間像は「知的・文化的生産能力の高い、個性的、創造的でしかも感性の豊かな人間＝豊かな人間性」であるととらえ、このような人間を育成するために、学校教育に求められているものは、子どもの思考や活動を大切にした授業づくりを一層すすめることと、学習過程で身に付く態度や能力を価値ある学力として、もっと重視しようとする学力観が大切であるとしている。子どもは本来、内在する腹の底から沸き上がる旺盛なやる気と最後までやり通さずにはおかないといった強い意志を持っている。このような子どもの持っている潜在能力を高める工夫をしながら授業を構築していくことによって、子どもは、満足感や成就感を味わいながら次への意欲を高めることができる。この連続によって質の高い造形活動が生まれると考えている。

北海道造形教育連盟研究部のこのような考え方は、我々の研究を進める上で心の支えになったと同時に、大きな示唆を与えてくれた。

### Ⅳ 主題設定の理由

先に述べたように、現代社会は日々急激な変化を見せている。このような中で豊かな生活を送るためには、社会の変化に柔軟に対応できる人間の育成が必要であると考え、社会の変化に柔軟に対応するためには、多様な価値観の中

で、主体的に思考し、判断し、行動できる人間でなければならない。我々は、このような能力を造形教育の中でどのように育成すべきかを考えた。その結果、今大会では、これまでの研究成果をふまえながら次のような研究を目指すこととした。自らの思いや願いを具現化するためには、造形的な創造力や構想力、新たなひらめきを持ちながら造形活動にとり組む心の育成が重要である。子どもの内なる欲求が造形活動への意欲を促すものであり、その結果得られた一人一人の満足感が次の創造力や直観力を刺激し、新たな発想を生み出すために必要な心情を育成すると考える。また、教師の役割としては、子ども中心の学習活動を支える支援が必要であると考えられる。

## V 主題について

### (1) ねらい

子ども一人一人が、造形活動の中で、その子なりのよさや可能性を発揮するためには、子どもが持っている思いや願いを大切にし、子どもが進んで活動できる充実した学習過程が不可欠である。その中で教師は、子どもの自ら学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などを育て伸ばすとともに、自らの思いや願いを具現化できるように造形的な資質や能力を育成する必要がある。

### (2) 解説

私達は、「心ときめく」を学習過程すべてに深く関わる感情のことであり、一人一人の子どもが主体的に、対象となるものや環境に出会うことによって、心情をより深め、発展させる可能性を持つものであるととらえた。子ども自身がドキドキするような「ときめく」場面とは、造形活動の多くの段階で考えられる。

#### ① 題材との出会いの段階

題材との出会いにより、表現への期待は膨らむ。更に、生活経験や既習学習を通して生まれる、また内発的動機が表現への意

欲を更に高める。

#### ② 発想・構想の段階

資料との出会いや、他の人の考え方との出会い、また、新たな発見によるときめき。この段階においても、生活経験や既習学習から発想や構想のヒントが生まれ、心ときめかせることが多い。

#### ③ 表現欲求の段階

今まで経験したことのない素材・材料・用具との出会いや新しい表現技法との出会いにより、これまで思いつかなかった多くの可能性が子どもの心の中に広がり、心ときめくことが考えられる。

#### ④ 鑑賞の段階

美術作品を目の当たりにしたり、自分の造形活動をふり返ったり、友達との作品交流を通して、新しいことに気付いたり、考え方を発見したりするときめきが考えられる。

このようなときめく場面が多ければ多いほど、子どもの感性は研ぎ澄まされ、いろいろなことに気付くようになる。また、発想が豊かになったり、新たなひらめきが生まれやすくなったりするのである。これが自分らしい表現へとつながり、次の活動への意欲を高めていく。これを繰り返すことによって、新たな造形活動に対する興味・関心は更に高まり、試行錯誤を繰り返す中で自分らしい個性的な技能をも獲得でき、自分らしい表現へと高まっていく。従って、「心ときめく」とは、子どもの造形活動に対する意欲を支えるものであって、前向きに造形活動に取り組もうとする心の状態であると考えられる。

「創造の喜びを求めて」については、次のようにおさえた。創造の喜びは、ただ自分の作品をつくるという行為の中からは生まれない。自分のやる気と強い意志に支えられながら、多少の困難を乗り越えて活動に取り組んでこそ生まれると考える。つまり、創造の喜びとは、創造的な造形活動を通して自然に生

まれてくる充実感や満足感を得る喜びや、新たな自己や新たな課題を発見する喜びである。このような積み重ねを繰り返すことによって、創造の喜びを培っていけると考えている。

### (3) 授業を構築するために

私達は、子どもが創造的な価値を追求したり、創造的な造形能力を向上するためには、創造の喜びを子ども達が自ら会得できるような授業を構築することが必要であると考えている。そのためには、子どもの内発的動機を子どもと同じ立場にたって、共感しながら、揺り動かし、引き出す工夫が必要であると考えている。また、子どもの内発的動機を次の学習へのエネルギーとなるように、支援的立場に立ち、子どもの主体性を全面に出しながら後押しをすることが重要であると考えている。子どもの心のときめきをより大きく広げるためには、教師は子ども一人一人の特性をよりの確に把握し、子どもの能力を最大限発揮できるように常に心がけておく必要がある。そのためには、教師自身が題材の目標をしっかりとらえ、目標を達成するために必要な造形の基礎的・基本的内容がどのようなものであるかを充分理解しておかなければならない。

以上のような考え方で授業を構築する面からまとめると以下のようなになる。

授業を構築する上で、まず考えなければならないのは、心のときめきを「子どもとともにときめく」という視点におくことである。

- ① 子どもの創造活動の原点を見つめ直すこと。
- ② 子どもの創造活動に対して、共感的理解を持つこと。
- ③ 子どもの主体的な学習を確立するための教師の支援のあり方を追求すること。

これらの視点から、造形活動における指導と評価を一体化した授業構築をどのようにすればよいかについて研究を進めるため、本研究主題を設定した。

## VI 研究仮説

子どもの創造活動の原点を見つめ直し、子どもの創造活動に対して、共感的理解をもって支援にあたる授業を構築すれば、子どもは心をときめかせながら、創造の喜びを味わうことができるであろう。

子どもの創造活動の原点を見つめ直すためには、子どもが本来持っているであろう潜在能力を洗い出さなければならない。ここに研究の視点をおけば、それだけで膨大な量になるため、本大会では、子どもが本来持っている潜在能力を北海道造形教育連盟で考えている「どの子ども・内在する腹の底から沸きあがる旺盛なやる気・最後までやり通さずにはおかないといった意志」とおさえた。その上で、子どものやる気や強い意志に対して、どのような働きかけをして、どう引き出すかの工夫について研究を進めることにした。

## VII 研究の視点

研究仮説に迫るためには、子どもの活動が主体的でなければならないと考える。子どもの活動を主体的にするには、子どもの意欲を引き出す工夫が必要である。子どもの意欲を引き出せるかどうかは教材との出会いから始まる。子どもの興味・関心を刺激するような教材を与えることによって、子どもの意欲を引き出せると考える。教材との出会いの後には、どのようにして子どもを主人公にした授業を構築できるかが問題になる。やらされている子どもでなく、やりたがっている子どもにすることが重要なのである。また、子どもの意欲を持続させるためには、子どもの活動に対して常に教師が評価しながら、子どもの活動を認めてやる必要があると考える。つまり、指導と評価を一体化させることによって、子どもは自分の活動が教師に認められているという充実感を持てるようになると思うのである。以上のような考えから、研究の視点を以下の3点においた。

- (1) 子ども自ら主体的な表現活動をするための授業構築のあり方。
- (2) 新しい学力観に基づいた評価のあり方。  
(指導と評価の一体化)
- (3) 意欲につながる教材開発および教材化。

## Ⅷ 研究の視点に迫るために

### (1) 子ども自ら主体的な表現活動をするための授業構築のあり方

- ① 指導目標の設定
- ② 学習過程の工夫
- ③ 主題の工夫
- ④ 子どものよさを生かす工夫
  - ・一人一人の子どもの関心や美的直観力への気づき。
  - ・主体的な学習活動を進めるための問いかけ。
- ⑤ 学習活動における支援の工夫
  - ・子どもの構想を具現化するための支援の在り方。

### (2) 新しい学力観に基づいた評価のあり方 (指導と評価の一体化)

- ① 子どもを理解する方法の工夫
- ② 評価の観点と評価規準の設定
- ③ 評価方法の工夫
  - ・教師が子どものよさを共感できる評価。
  - ・子ども自身が造形意欲を高めるための自己評価。
  - ・グループなどによる他者評価。
- ④ 評価の生かし方

### (3) 意欲につながる教材開発および教材化

- ① 子どもの興味・関心を高める教材や題材の工夫
- ② 地域の特性を生かした教材開発
  - ・学校規模、地域の人材、環境、素材など。

## Ⅸ おわりに

今回の研究を通して、これからの造形教育は、今まで以上に幼稚園から高等学校まで「心豊かな人間を育てる」という共通の目的に立って、研究を進めていく必要があるという思いを強くした。なぜなら、幼稚園は幼稚園で高等学校は高等学校でそれぞれ素晴らしい実践を重ねていることを改めて実感させられたからだ。しかし、残念ながらそれらが一同に会して、議論をする機会があまりにも少ないのである。今はまだ、点として働いているように見える力であるが、これが線としてつながったときには、造形教育の力は本当に素晴らしいものになると思われる。そのためにも、本研究会の果たす役割は大きいと思われる。幼稚園から高等学校までの点が、一本の線となり力を発揮するためには、子どもの発達段階に応じて「教えなければならない基礎・基本は何か」「育てなければならない資質や能力は何か」について、指導する側が共通認識を持ち交流を深めながら教育を進める必要があると思う。

また、こんな疑問も生じた。時代は刻々と変化するが、求められる人間像まで、時代の流れと共に変化すべきものなのだろうか。もちろん、変化しなければならない部分も当然あるが、人間に求められる本質的なものは不変であると信じる。造形教育が担っているものは、人間に求められている本質的なものであるように思われる。

我々大人は、子どもが夢を持てるような社会をつくらなければならない。そして、造形教育を通して子どもの夢を大切にしながら、子ども自身が自分の表現を好きになれるよう育てていければ、自分を大切にし友達も大切にできる心豊かな人間に育ってくれると信じる。

本研究会の研究主題及び内容等については研究部員を中心に一昨年来検討し、実践を重ねてきた。

なお、研究に際し、多くの関係各位の方々のご指導ご助言を頂きましたことに感謝を申し上げます。

# 業 授 開 公



公開授業


校種	内容・分野	学年	題材名	授業者
幼稚園	表現	5歳児	海の中の世界	池貝達也 (釧路豊川幼稚園)
	表現	5歳児	北海道をつくろう	今野鈴子 池田奈美 (ひぶな幼稚園)
小学校	造形あそび	2年	不思議なたまご	中島健朗 (釧路市立城山小学校)
	立体にあらわす	3年	生き返る材料	平野史子 (釧路市立日進小学校)
	絵にあらわす	5年	気球に乗って	小野三枝子 (釧路市立柏木小学校)
	つくりたいものをつくる	6年	キャンドルスタンド	生田和江 (釧路市立清明小学校)
中学校	絵画	1年	友達を描く (水彩)	古川史実 (釧路市立東中学校)
	工芸	1年	私のキーホルダー (革工芸)	太子弘和 (釧路市立大楽毛中学校)
	彫刻	2年	励ます立体 (抽象的立体)	高橋潤 (鶴居村立鶴居中学校)
	絵画	3年僻地	私の思い (テンペラ)	北山貴子 (標茶町立阿歴内中学校)

題材名 「海の中の世界」

幼稚園5歳児 表現

主題 自分達の発想を絵に製作に表現する。

鉤路豊川幼稚園  
授業者 池 貝 達 也



#### 4. 活動の計画

園では日常、子供達が空き箱や新聞紙等を用いて自由に好きな物を作り遊んでいるので、材料の選択や工夫については各自心得ている。

今回のテーマは普段子供達が目にしたり身近に体験出来る内容ではないので、子供のイメージ方向を定める為、映画を鑑賞したり海の生き物を実際に見に行く等して個々の考えを具体化し、意見を交換しながらどのような形で表現するか内容を練っていった。

#### 1. 題材目標

子供達一人ひとりの想像力を高め、絵や製作で表現する楽しさを味わう。

#### 2. 本時のねらい

海の中の景観を壁画にしたり、いろいろな材料を利用して生き物を製作する等し、日常的な空間を非日常的な海の中の世界に変え、そこで擬似体験遊びを楽しむ。

#### 3. 園児の実態

クラスにいる子供の殆どが年中少からの持ち上がりであり、これ迄の経験からグループ活動において、自分の役割りや責任を見出し自ら取り組める姿勢を持っている。

#### 5. 本時の計画

##### ①目 標

- 一人ひとりが想像力を働かせ、身近な素材を使用してそれを表現する。
- 想像の世界を完成させ、その場で楽しく遊ぶ

##### ②準 備

- (教 師)
- 廃品(空き箱・包装紙・新聞紙 etc)
  - 模造紙・絵の具・その他
- (子 供)
- 遊びに使用する小道具

#### ③展 開

予想される幼児の活動	教師の支援
①前時迄の活動を話し合う。 ②限られたスペースをどのように海の世界へ変えていくか意見を出す。 ③製作開始 ・壁に絵の具を使って描写する。 ・いろいろな材料を用いて作る楽しさを覚える。 ④完成した作品について意見交換をする。 ⑤想像をふくらませて遊ぶ。	・活動の目的を知らせる。 ・活動意欲が持てるように話し合いの機会を与える。 ・取り組んでいる子供から話を聞き、必要であれば助言を与える。 ・友達の活動にも目を向けられるよう声掛けし、共同の作業であることを知らせる。 ・一人ひとりの作品、活動内容を認める。 ・さらにイメージがふくらむよう工夫する。



題材名 「北海道をつくろう」

幼稚園5歳児 表現

主題 私達の住む北海道を紙粘土で表現する。

ひぶな幼稚園  
授業者 今野 鈴子  
池田 奈美



以上の基礎学習のための教材、教具が用意されている。

- ・子ども達（年長児）は、粘土を通して地形の学習（島、湖、半島、湾）等の作成を経験している。
- ・日本地図、地名に興味と関心を寄せ、テレビで放映される天気情報から北海道14支庁の名前が把握できるようになっている。

1. 題材目標

紙粘土で北海道を作ることによって、より一層、地形を理解する。

2. 本時のねらい

地形に対するイメージを更に広げ（島・湖）北海道という（私達の住んでいる所）大きな大陸を紙粘土で作る（立体）、周囲を色水（水色－海水）で囲む事によって北海道も大きな島であることに興味と関心を持ち理解する。

3. 園児の実態

※文化の領域

- ・地球（私達の住んでいる星）の誕生について
- ・地球→地球儀→世界地図について
- ・世界地図→七大陸、五大洋、地形について

③展 開

4. 活動の計画

- ①年長になって交友関係や日常生活も豊かになり、地図遊びが盛んになる。
- ②地形を理解するために北海道（陸）を紙粘土で立体的に表現し、周囲に色水を注いで海を表現する。 （本時）
- ③紙粘土を乾かし、絵の具で地図に色を付け（山、平地）、紐を付けて壁掛けにする。

5. 本時の計画

- ①目 標
  - ・紙粘土で楽しみながら形の決まった物に発展させる。
  - ・地形について興味を持つ。
- ②準 備
  - ・紙粘土 ・色水 ・北海道地図板 ・容器
  - ・手拭き ・新聞紙

予想される幼児の活動	教師の支援
①前時までの活動を思い出し話し合う。 ②自分のイメージした北海道を紙粘土で作る。 ・島、湖、半島、湾、山の凹凸を考えながら ③容器に入った北海道に色水を注いで海を作る。 ④できた作品を鑑賞し合う。 ⑤後片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の活動を楽しめるような雰囲気作りをする。</li> <li>・紙粘土の使い方を説明し、凹凸など工夫できるよう助言する。</li> <li>・子どもの表現活動や頑張っている点を認め、励ましたり、アドバイスをする。</li> <li>・自分の作品に満足し、北海道が海に囲まれた島であることを確認し合う。</li> <li>・次時への取り組みを伝え期待を持てるよう促す。</li> </ul>

題材名 「ふしぎなたまご」

小学校2学年 造形あそび

主題 身近材料を使って、思いのままに、  
表現を楽しもう。

釧路市立城山小学校

授業者 中島健朗



1. 授業への思い

2年生の子供達は不思議な生き物が大好きである。「先生、こんな動物をかいたよ。」「こんな恐竜いるかな。」と子ども達が見せに来る。休み時間に描いた絵や粘土で作った作品には、不思議な生き物があふれている。

この単元では、そんな子ども達の豊かな発想を、不思議な生き物の卵を想像させる事でさらに広げ、一人ひとりの子どもがいろいろな材料を組み合わせ、オリジナルな生き物をつくり上げていく過程を楽しませたい。

また、この学習を通して自分の思いを表現する親しみや喜びを感じてほしいと思う。

5. 本時の展開 (3/5時)

児童の学習活動	教師の支援
①自分が必要な材料を選択する。 ・胴体使用する物を選び、その後、他の部分の材料を選ぶ。 ②材料を組み合わせ、どんな形にしていくかを考える。 ③自分の思いにしたがって、自由につくる。 ・接着、接合をくふうする。 ・配色、彩色も考える。 ④本時の活動を振り返る。 ⑤後始末をする。	・児童の活動に十分な量の材料を準備しておく。 ・材料選びに困っている児童には、どんな生き物をつくるかを一緒に話し合いながら、イメージがつかめるように支援する。 ・つくりながらの発想を大切にしよう働きかける。 ・材料に合わせた接着方法、接着材を準備しておき、工夫して使わせる。 ・学習を振り返らせ、今後の活動に必要な物について考えさせる。

2. 学習のねらい

- ◎自分の思いをもとにして、楽しみながら表現しようとする。
- ◎自分の表現したい物に合わせて、材料や表現方法を工夫し、構想する。
- ◎自分のイメージに合わせて、身近な材料を組み合わせて表現する。
- ◎自分の作品の自慢をするとともに、友達の子作品の良い所を認める。

3. 学習活動計画 (5時間)

- ①不思議な生き物のイメージを広げ、その生き物のうまれる卵を想像し、絵に描いたり、つくったりする。 (2時間)
- ②卵からうまれる生き物を想像し、適した方法や材料を選び、不思議な生き物をつくる。 (2時間 本時1/2時)
- ③自分たちの作品(生き物と卵)について発表しあい、本活動を振り返る。 (1時間)

4. 本時のねらい

- ・自分のイメージした生き物をつくるための材料を選び、工夫して組み合わせる。
- ・色々な道具や接着剤の使い方を知り、上手に使いながらつくる。

題材名 「かことみらいへ  
みんなでいこう！」

小学校3学年 つくりたいものをつくる

主題 廃材の持ち味を生かしてつくる。

釧路市立日進小学校

授業者 平野史子



### 1. 授業への思い

低学年の時、造形遊びや生活科を通しながら「もの」に触れさせたり、材料や道具を楽しませる体験的な活動を多く取り入れてきた。そのため、大人が見のがしてしまうような小さな物を、身の回りから見つけたり、集めたりすることのできる子どもが多くなってきた。

本単元では、春の遠足で海岸へ行った折に、楽しく遊びながら集めた漂流物、石や貝殻など使わせながら、想像の世界を広げさせたい。

特に、子どもたち自身が、目的や条件に合わせてながら、話し合いすることによって、自分たちの想像の世界をグループ活動や共同作業で深めさせ、思いを実現させるような授業の展開を工夫したい。

### 5. 本時の展開 (4/6時)

児童の学習活動	教師の支援
①前時の進行状況から本時の学習の見通しを持つ。	・前時までの進行をグループごと確認させる。
②自分たちの想いを、廃材や自然物を工夫して使い、楽しい町を作る。	・作りたいものが表現できるように、考えながら構成できるよう励ます。
③本時の学習を振り返り、次回に必要なものを発表する。	・材料を切る、折る、曲げる、結ぶ、組む、重ねるなど接着を工夫できるように助言する。
	・廃材などをうまく組み合わせたり、工夫しているところを賞賛したりする。
	・次回に必要な材料について考えさせる。

### 2. 学習のねらい

- ◎身の回りから、自分たちの町作りに合わせた廃材や自然物を集める。
- ◎集めた材料を、グループごとに協力し合って切ったり組み合わせたりして作る。
- ◎廃材や自然物の特徴を考えて工夫して作る。
- ◎自分たちが作った町で、楽しく遊ぶ。

### 3. 学習活動計画 (6時間)

- ①自分たちの作りたい町のイメージを話し合いイメージに合わせた材料を集める。  
(1時間)
- ②グループごとのイメージを生かし、材料を工夫して組み合わせる。  
(4時間 本時3/4時)
- ③想像力を持って、自分たちの作った町で楽しく遊ぶ。  
(1時間)

### 4. 本時のねらい

- ・恐竜の町、宇宙の町、海の町など材料の形や特徴を工夫して作る。
- ・材料に合わせて、道具を効果的に使って作る。
- ・グループごとに協力して楽しみながら作る。

題材名 「気球に乗って」

小学校5学年 絵にあらわす

主題 自分の思いをはっきりさせながら表現しよう。

釧路市立柏木小学校

授業者 小野 三枝子



1. 授業への思い

大空に気球で飛び立ち、そして眼下に広がるすばらしい景色をながめる……。導入を工夫し、そんなワクワクするような感じに共感できれば、この題材は子供たちにとって楽しいものになるであろう。そして、その思いを大切にしながら自分の乗ってみたい気球、見てみたい景色などへと想像を広げ、それを表現していく。この素材は、楽しみながら自分の思いを表すのに適切と考える。

高学年になると、描くことに抵抗を感じる子供が多い。今回の活動においてもそれぞれの段階でのつまずきが予想される。その中で、一人ひとりに目を向け、個に合わせた支援をどのようにしていくかが教師側の課題と考える。

5. 本時の展開 (8/11時)

児童の学習活動	教師の支援
<p>①本時の活動の見通しをもつ。</p> <p>②自分のイメージを大切にしながら彩色を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が一番大事にしたいところを中心に配色を考える。</li> <li>混色や筆使いを工夫する。</li> </ul> <p>③本時の活動を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の授業の中から本時の彩色で参考となることを話し、それぞれが見通しや意欲をもって取り組めるよう促す。</li> <li>彩色や配色でつまずいている子に助言する。</li> <li>一人ひとりのよいところや工夫しているところをできるだけ見つけ認める。</li> <li>学習カードの活用を図る。</li> </ul>

2. 学習のねらい

- ◎自分の表したいことを進んで工夫し、楽しみながら表現しようとする。
- ◎上から眺めることを意識しながら、自分の描きたい場面を具現化し、構図や彩色を工夫して表現する。

3. 学習活動計画 (8時間)

- ①気球で旅をするイメージを広げ、乗ってみたい気球、行ってみたいところを決める。  
(1時間)
- ②アイデアスケッチをしながら、自分の思いが伝わるように画面構成などを工夫する。  
(1時間)
- ③アイデアスケッチをもとに下絵をかく。  
(1時間)
- ④配色を考えながら彩色する。  
(4時間 本時2/4時)
- ⑤自分たちの作品について発表し合うとともに活動を振り返る。  
(1時間)

4. 本時のねらい

自分のイメージに合った色合いを大切にし、それぞれの配色を考えながら彩色する。

題材名 「土を焼いて キャンドル  
スタンドをつくろう」

小学校6学年 つくりたいものをつくる  
主題 土を材料とした創造活動を楽しみ、  
生活の中に生かせる思いのこもった  
作品をつくる。

釧路市立清明小学校  
授業者 生田和江



### 1. 授業への思い

子どもたちは粘土でつくることが大好きである。その感触のよさとすぐれた可塑性がその理由であろう。本題材では、焼成を通して長期保存が可能になるため、生活の中に生かすことのできる記念碑的な思いのこもった作品づくりができると考える。

ここでは、キャンドルスタンドという目的や条件を踏まえた上で、素材のもつ可塑性を生かして十分に創造活動を楽しませたい。導入では発想を広げる工夫をし、何よりも一人ひとりの思いを大切にその実現に向けて支援をしていきたいと思う。そのためにも成形の仕方は自分で選ばせ、自分の思いに合った表現方法で、見通しをもちながら進めていってほしい。

### 5. 本時の展開 (5/8時)

児童の学習活動	教師の支援
①本時の活動の見通しをもち、工夫したいことを確認する。	・前時の頑張りに触れ、本時への思いが高まるよう全体を励ます。
②丈夫に成形するためのポイントを確認する。	・乾燥時や焼成時に割れないよう、つくる時の注意を促す。
③構想をもとに、独創的なキャンドルスタンドになるよう形や飾りを工夫して成形する。	・それぞれ工夫している点を見つけ認める。 ・思いの実現につまずいている子には、話を聞きながらヒントを与えたり助言をして励ます。
④自己評価カードにより本時の活動を振り返り次時の活動を見通す。	・次時への意欲化を図る。

### 2. 学習のねらい

- ◎自分のつくりたいものに向かって見通しをもち、創造活動を楽しもうとする。
- ◎自分の思いをはっきりもち、目的に合わせて形や飾りの工夫をこらす。
- ◎いろいろな成形の仕方を知り、思いに合った技法で、丈夫に成形する。
- ◎自分の思いや工夫を発表し、自他の作品のよさを認め合う。

### 3. 学習活動計画 (8時間)

- ①キャンドルスタンドへの関心を深め、いろいろな成形の仕方を知り、つくりたいものの構想を練る。(2時間)
- ②自分の思いに合った技法で形や飾りを工夫しながら成形する。(4時間 本時3/4時)
- ③焼成後、簡単に色をつける。(1時間)
- ④自分たちの作品について発表し合い、よさを認め合いながら活動を振り返る。(1時間)

### 4. 本時のねらい

- ・構想をもとに、自分の思いを大切にしながら細かな形や飾りを工夫する。
- ・焼成時に割れないよう丈夫につくる。
- ・独創的なキャンドルスタンドになるよう進んで工夫し、創造活動を楽しもうとする。

題材名 「友達を描く」

中学校1学年 絵画

主題 描く友達の特徴をつかみ色彩による人間らしさの表現を追求しよう。

釧路市立東中学校

授業者 古川史実



1. 授業への思い

絵画領域の中でも人物画は身近な題材であり、自分以外の人物を見つめ、特徴をつかもうとする意識から始まり、外見から内面の追求にまで発展させることができるものと思われる。

外見にこだわりがちな年頃なので、うわべだけでなく内面的な感情やありのままの姿を見つめる良い機会でもある。

様々な性格や特徴に触れ、人間らしさを考えながら互いを理解し合い、尊重する態度を養いたいと願っている。

また、観察やデッサン力、色味の発見や着彩の技法等も、感動をもとに身に付くような授業展開にしていきたい。

5. 本時の展開 (8/14時)

2. 学習のねらい

- ◎今まで気づかなかった特徴を見つけ人物描写の面白さを体験する。
- ◎表面的な部分を追究させながら、人物理解～内面の理解にまで発展させ、生き生きとした生命感を表現する力を身につける。
- ◎自他の作品の良さを認める鑑賞力を養うことにより、互いを尊重し合う態度を身につける。

3. 学習活動計画 (14時間)

- ①オリエンテーション、描写の技術・見方の指導。(クロッキー・鉛筆デッサン) (7時間)
- ②色味の発見・色作り・着彩指導 (6時間 本時1/6時)
- ③作品の鑑賞 (1時間)

4. 本時のねらい

明暗の中にも色味を発見し、試行錯誤しながら色を作り着彩させることで、画面により深い生命感を与える。

生徒の学習活動	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>①前時までの学習を振り返り、本時の制作のあり方を認識する。</li> <li>②対象をよく観察し、表現のねらいをはっきりさせる。</li> <li>③色味を感じとる。</li> <li>④色作りの試行(明暗・立体感を考えながら)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの学習の流れと重点をおさえ、本時の制作のねらいと進め方を確認する。</li> <li>・相手の内面からでてくる雰囲気(全体)と感じとれる色味(部分)の発見を促す。</li> <li>・相手の特徴と人間らしさ(生命感)への意識を高める。</li> <li>・感じた色味になるよう色作りの試行を促す。</li> <li>・単調な色彩表現にならないように明暗色の違いや心でとらえたわずかな色味の変化を問いかける。</li> </ul>

題材名 「私のキーホルダー」

中学校1学年 工芸

主題 自分を表現する

釧路市立大楽毛中学校  
授業者 太子弘和



1. 授業への思い

革の素材を生かした作品、キーホルダーを作ることによって、生徒が普段加工することのない素材に親しめる授業にしたいと同時に、テーマにもなっている「自分を表現する」にもあるように、作品を通じて「自分の個性とは何か」を見つめ直してほしい。

本校で、昨年からはじめた革工芸は、今まで扱ってきた教材に見られる絵画的要素、彫塑的な要素を兼ね備えた素材を扱った工芸分野であるため、子供達の選択肢を広げる意味でも画期的な素材であり、今後の展開にも期待したい授業である。

2. 学習のねらい

◎本題材では、次のような内容がねらいであり評価の観点となる。

- ・積極的に取り組んでいるか。
- ・作品によって「自分」が表現できているか。
- ・正しい道具の使い方ができているか。
- ・素材の性質を理解できているか。

3. 学習活動計画 (10時間)

- ・革について考える ..... 1時間
- ・「自分」について考える ..... 2時間
- ・デザイン ..... 3時間
- ・転写 ..... 1時間
- ・刻印・裁断 ..... 1時間
- ・着彩 ..... 1時間
- ・鑑賞 ..... 1時間

4. 本時のねらい

- ・前時の活動によって転写されたデザインを実際に加工する。
- ・制作する際、必要に応じて最適な道具を選び、その機材を正確に使用し自己表現ができる。

5. 本時の展開 (8/10)

生徒の学習活動	教師の支援
<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作の準備 (作品・道具)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○班の隊形になる。</li> <li>○各班に、道具と革を配る。</li> </ul> </li> <li>・制作 (刻印・裁断)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○練習……スーベルカッターの練習</li> <li>○実制作…用途にあった道具を使って作業ができる。</li> </ul> </li> <li>・自己評価 (後始末)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>○プリントによる制作の見直しとまとめ。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特殊工具 (道具) の準備</li> <li>・道具の使用方法を確認する</li> <li>・技術的援助をする</li> <li>・生徒作品の提示</li> <li>・各自の自己表現について共感し、助言する。</li> </ul>

題材名 「励ます立体」

中学校2学年 立体造形

主題 削り取られた面に現れる模様を生かして抽象的な意味を表現した立体を作成する。

鶴居村立鶴居中学校

授業者 高橋 潤



2. 学習のねらい

- ◎彫る材料をマーブル状の塊として作ることに  
より、塊の中の「空間」を意識する。
- ◎削り取られながら現われる偶発的な内部の模  
様の変容により、彫ることの純粹な意欲を高  
めさせ、イメージを喚起する。
- ◎イメージと意欲を高め、能率的で効果的な用  
具や使い方を工夫する。
- ◎制作過程でイメージを変更させながら、最終  
的に到達した作品に題名をつけさせ、イメー  
ジと表現、表現と印象を合致する。

1. 授業への思い

美術の題材には造形的な技能を高めさせるためのものと、造形的な表現活動をさせるためのものと2通りのものがあると思う。中学美術において技能の向上なしには満足する表現活動には到達しないし、表現活動の喜びなしの技能の向上は無意味である。題材はいずれかの目的を持たされ年間指導計画に配置されるべきものと考え、本題材はそういう意味では表現活動としての題材である。ここではなるべく複雑で専門的な技術なしで表現活動ができることを念頭においている。

本学級の生徒は純粹で素直である反面、思い切った独創的な表現が苦手である。しかし、鶴居村という自然豊かな環境で生まれ育った生徒達は他にない素朴で暖かな表現を持っている。それがこの作品の中にのびのびと生かされるよう留意して指導していきたい。

3. 学習活動計画 (6時間)

- ①題材の目的内容をよく押えながら塊の2色の配色を決め、マーブル状の粘土の塊を作成し構想を練る。(1時間)
- ②アイデアスケッチをもとに、のこぎりやサンダーで荒削りしていく。(1時間)
- ③彫刻刀やのみ、棒やすりを使って細部を彫刻していく。途中形成される形によりイメージを変更しても良い。(3時間・本時2/3時)
- ④完成した作品に題をつけ全体で鑑賞した後、グループ毎に発表しあう。(1時間)

4. 本時のねらい

- ・初めの構想から、更に新たなイメージを喚起し膨らませて、独創的な立体を追求していく。
- ・自分のイメージにあった立体を形成するために、用具や用具の使い方を工夫する。

5. 本時の展開 (2/6)


生徒の学習活動	教師の支援
①前時の活動内容を押さえ、本時の活動内容を捉える。	・本題材の目的を押さえ、前時までの流れについて確認する。
②用具の使い方や彫りの要領を押さえ、本活動の見通しをたてる。	・彫りの方法、用具の特性、使い方等の説明をし怪我のないよう注意させる。
③前時までの構想を思い出し、制作に入る。	・各自の目的に適した活動を行っているか机間巡視しながら用具の使い方、方法について支援する。
④形成されていく作品の印象の変容を捉えながら、新たなイメージを喚起し、表現を工夫していく。	・行き詰まりの生徒に表現のアドバイスをする。



題材名 「私の思い」

中学校3学年 絵画

主題 テンペラで想像性豊かな作品を作ろう



標茶町立阿歴内中学校  
授業者 北山 貴子

### 1. 授業への思い

水彩画の取り組みは、1年生の題材「身近な風景」でふだん見なれた物の形や色の美しさを感じとり、2年生の題材「静物画」でモチーフの組み合わせや配置の大切さを考えながらその感動を表現してきた。

いずれも対象とする物を観察しながらの制作であったが、3年生では具体的に形を持たない自分自身の思いに焦点を絞り、日常生活の中から発想したイメージをもとに想像の世界を豊かに表現する喜びを感じさせたい。

今回の描画材料「テンペラ」は、水彩絵の具のように水で薄めて描け、発色も美しく、細かい描き込みが可能な絵具である。その特性がテーマを表現する上で効果的に生かされるように支援していきたい。

### 5. 本時の展開 (11/15時)

生徒の学習活動	教師の支援
①前時までの学習を振り返り、制作の手順を確認する。 ②各自の課題にそって制作する。 ・濃度を考えながら絵の具を作る。 ・技法を工夫しながら制作を進める。 ・的確に描き込み、主題を追求する。 ③本時の活動を振り返る。(学習カード記入)	・黒板に制作過程を掲示し、前時までの流れと本時の作業について説明する。 ・各自の課題を掲示する。 ・一人ひとりがイメージしている表現に近づけるようにアドバイスする。 (絵の具の濃度、筆の太さ、技法など) ・作品を少し離して見るように促す。 ・作品を黒板に掲示 ・次時の課題を把握する。

### 2. 学習のねらい

- ◎表現の主題を明確にし、自己の内面にある思いを豊かに表現する。
- ◎テンペラの特長や材量の使い方を知り、自分の表現に生かす。
- ◎自他の作品の良さを認め、慕らしの中で作品を大切に作る態度を育てる。

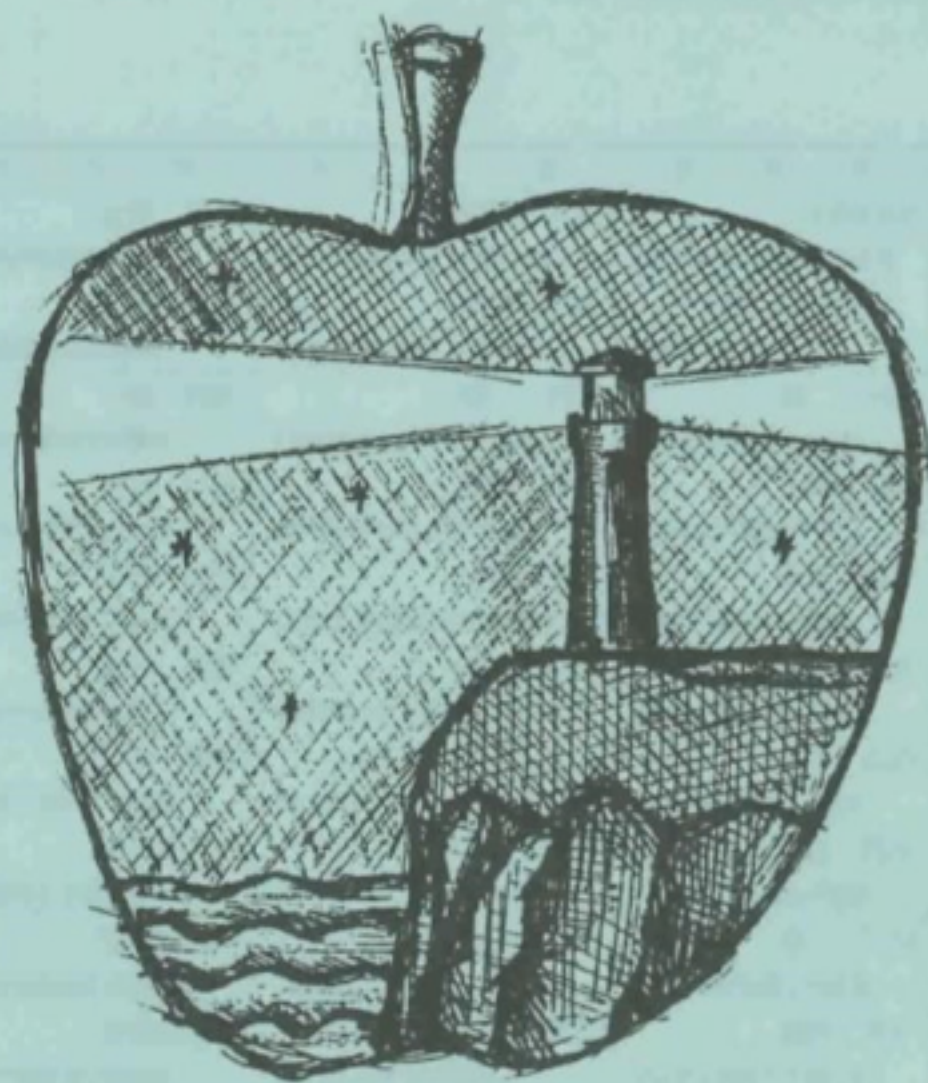
### 3. 学習活動計画 (15時間)

- ①主題の追求とアイディアスケッチ。 (3時間)
- ②水彩画とテンペラ画の特性について考える。 (1時間)
- ③テンペラ画の材量と技法を知る。 (3時間)
- ④支持体を制作する。 (1時間)
- ⑤テンペラ絵の具の特性を生かしながら着色する。 (6時間 本時3/6時)
- ⑥お互いの作品を鑑賞しながら、それぞれの思いや工夫した点などを発表する。(1時間)

### 4. 本時のねらい

- ・テンペラ絵の具で具体的な形を描き、イメージを追求する。

# 分 科 会



分科会 1 (授業)

校種	内容・分野	学年	授業者	助言者	司会者	運営・記録者
幼稚園	表	現 5歳児	池貝 達也 (釧路豊川幼稚園)	福井 凱将 (北海道教育大学釧路校教授)	堀内小夜子 (釧路豊川幼稚園長)	三浦久依(釧路豊川幼稚園) 佐藤寿美(第二豊川幼稚園)
	表	現 5歳児	今野 鈴子、池田 奈美 (ひよな幼稚園)	山王丸喜一 (白糠町立原路幼稚園長)	佐々木浩美、羽生美智子 (ひよな幼稚園)	神田 明子、渡辺乃麻美 (ひよな幼稚園)
小学校	造形あそび	2年	中島 健朗 (釧路市立城山小学校)	中村 彰 (白糠町教育委員会指導室長)	坂本 重雄 (釧路市立白糠台小学教頭)	福岡 章明 (釧路市立駒場小学校)
	立体にあらわす	3年	平野 史子 (釧路市立日通小学校)	新井 義史 (北海道教育大学釧路校助教授)	中島 郁子 (釧路市立湖畔小学校)	慶伊 伸子 (釧路市立芦野小学校)
	絵にあらわす	5年	小野三枝子 (釧路市立柏木小学校)	中島 欣也 (厚岸町立床澤小学教頭)	宝輪 勝己 (白糠町立白糠小学校)	里見 勝之 (白糠町立原路小学校)
	つくりたいものをつくる	6年	生田 和江 (釧路市立清明小学校)	二上 正司 (北海道教育大学釧路校助教授)	佐藤 尚子 (釧路市立桂志小学校)	松井美代子 (釧路市立愛国小学校)
中学校	絵	1年	古川 史実 (釧路市立東中学校)	柳 悟 (釧路市立城山小学校長)	田中 浩 (釧路市立東中学校)	中谷内 遼 (白糠町立白糠中学校)
	工芸	1年	太子 弘和 (釧路市立大葉毛中学校)	加藤 直樹 (北海道教育大学釧路校助教授)	津田 宏明 (釧路市立弥生中学校)	吉田ゆうみ (釧路市立美原中学校)
	彫刻	2年	高橋 潤 (鶴居村立鶴居中学校)	大森 正明 (釧路市立景雲中学校長)	阿部 孝彦 (釧路市立武佐中学校)	和田 達佳 (浜中町立敷布中学校)
	絵	3年 併地	北山 貴子 (標茶町立阿歴内中学校)	渋谷 弘志 (厚岸町立太田中学校長)	杉山 浩彰 (鶴居村立上標呂中学校)	小池 洋子 (釧路町立昆布森中学校)

※「全道造形教育ネットワーク部会」をこの時間帯から開催します。

分科会 2 (提言)

校種	No	内容	提言者	助言者	司会者	運営・記録者
幼稚園	1	表	作品を語る 参加者の先生方、是非作品 を持参してください。 提言(札幌)	福井 凱将 (北海道教育大学釧路校教授) 森川 昭夫 (北海道教育大学札幌校講師)	長尾 忠也 (釧路愛国幼稚園長) 佐藤 尚子 (釧路明照幼稚園長)	鈴木 雪子 (本州製紙こぼと幼稚園長) 星 のぞみ (湖畔幼稚園長)
小学校	2	造形あそび	森川 浩 (釧路町立富原小学校) 渡辺 貞之 (深川市立深川小学校)	中村 彰 (白糠町教育委員会指導室長) 渡辺 正勝 (旭川市立台場小学教頭)	宝輪 勝己 (白糠町立白糠小学校) 田口 和男 (札幌市立月寒東小学校)	福岡 章明 (釧路市立駒場小学校) 松井美代子 (釧路市立愛国小学校)
	3	絵にあらわす	伊藤 恵理 (釧路町立富原小学校) 山口 雅子 (帯広市立関西小学校)	新井 義史 (北海道教育大学釧路校助教授) 大井誠一郎 (中標津町立若竹小学教頭)	中島 郁子 (釧路市立湖畔小学校) 藤木 邦啓 (千歳市立北陽小学校)	慶伊 伸子 (釧路市立芦野小学校) 斉藤 洋恵 (釧路市立芦野小学校)
	4	つくりたいものをつくる 立体にあらわす	内山 博之 (教育大学附属釧路小) 土肥 宏充 (札幌市立厚別北小学校)	二上 正司 (北海道教育大学釧路校助教授) 狩野 鉄男 (斜里町立字登呂小学校長)	佐藤 尚子 (釧路市立桂志小学校) 中川真一郎 (熊石町立熊石小学教頭)	里見 勝之 (白糠町立原路小学校) 磯部 和子 (釧路町立別保小学校)
	5	平面造形について	早川 弘 (標茶町立御幸別中学校) 今多 博勝 (苫小牧市立後雲中学校)	柳 悟 (釧路市立城山小学校長) 宮沢 克忠 (帯広市立第六中学校)	杉山 浩彰 (鶴居村立上標呂中学校) 小笠原信志 (旭川市立広陵中学校)	中谷内 遼 (白糠町立白糠中学校) 小池 洋子 (釧路町立昆布森中学校)
中学校	6	立体造形について	佐藤 秀貴 (釧路町立富原中学校) 伊藤 正清 (江別市立野幌中学校)	加藤 直樹 (北海道教育大学釧路校助教授) 横田 裕美 (音更町立共栄中学校)	津田 宏明 (釧路市立弥生中学校) 阿部 時彦 (札幌市立南が丘中学校)	和田 達佳 (浜中町立敷布中学校) 吉田ゆうみ (釧路市立美原中学校)
高校	7	絵	久保 克洋(釧路北陽高校)	佐々木 寧(教育大学釧路校講師)	尻江 尚(釧路湖陵高校)	松久 充生(釧路工業高校)
障害児	8	特殊学校(精薄)・(工作)	吉田 后余(釧路養護学校)	明神もと子(教育大学釧路校教授)	桂 比呂子(釧路養護学校)	大橋 拓(釧路養護学校)

〈提言〉 小学校・造形遊び

造形遊びをもとに  
つくる喜びを生み出す

釧路町立富原小学校

氏名 森川 浩



### 1. はじめに

前任校での事だったが、僻地小規模校という事もあってか、集団での遊びがなかなか体験できなかった子供達は休み時間ともなると紙と鉛筆を用い思い思いにマンガを描いたり、恐竜を描いたりしていた。あらゆる義務的な拘束から解放され、自分の思いをそれぞれが描くという活動を通し、全く個人の自由な意志を基盤とする世界に思いを投げ込んでいたのだと思う。

もともと子供達の活動は、それぞれの思いや欲求が原点となり、束縛されることのない自由な遊び心の中で発展し広がっていくようである。

生涯学習社会と呼ばれる昨今、最も大切にされていかなければならない事は、子供達一人ひとりに活動する喜びを味わわせていく事ではないかと考える。私達教師は種まく人であり、まいた種と大地を慈しみ、しっかりと根を張り芽を出すよう環境づくりをしていく農夫であるのだと思う。

### 2. 研究の経過（紙版の絵の実践を通して）

研究の視点として、興味・関心をもとに、いかに自分の作品を生み出す意欲を継続しうるかを重点とし、その意欲づけの導入をどのように構成していくかに着目し造形遊びの要素を取り入れ学習活動における意欲の喚起を試みた。

### 3. 指導の実際

#### (1) 学習目標

- ア. 関心・態度～自ら表したいと思う世界をつくり出すために、色々な素材を集め工夫して取り組むことができるようにする。
- イ. 発想・構想～素材の特徴をとらえ、画面に表れる様子を思い浮かべながら使うものを考えることができるようにする。
- ウ. 技能～自分の思った世界を描けるよう素材の特徴をとらえ、大きさや重なりを考え切ったり張り合わせたりして版板をつくることができるようにする。
- エ. 鑑賞～友達作品を見て、表現や作り方の違いを感じとり話し合うことができるようにする。

#### (2) 指導計画（8時間）

- ◎手のかたうつし (1)
- ◎色々な版をつかって (1)
  - ・自分の描きたい世界の構想を練る (1)
  - ・紙や様々な素材で版をつくる (4)
  - ・刷り上げて、でき上がった作品をもとにお話ししてみよう。 (1)

上記のような、ねらいと指導計画をもとに学習意欲の継続をいかに生み出していくのかという視点で1時間目に教室の中に大きく広げた模造紙の上で、最も身近かな手を版とし、思うぞんぶん活動させてみた。そして2時間目には、紙のみならず、様々な効果を画面に表すであろう素材を見つけ出すために、子供達それぞれが持ちよったものを版とし、思い思いの画面づくりを楽しませた。

### 4. まとめと今後の課題

子供達が喜ぶ表情に教師は共感し、励ましの声をかけていく。それに習うかのように学級の仲間が「本当だ。すごい！」と声を出す。一人一人が教師と友達から大切にされていると感じとれた時、このうえない心の充足を感じるのではないだろうか。子供達が活動しようとするエネルギーの源は、そんなところにもあるのではないだろうか。その積み重ねがやがて子ども達の自信となり生きる力となっていくのだろう。

〈提言〉 小学校・造形あそび

いたずらがきが、街のイベントへ



深川市立深川小学校  
氏名 渡辺 真之

## 1. はじめに

兼ね兼ね子どもは天才であるといったようなことをよく耳にしますが、この実践は正にその事を裏付けるようなものでした。一人の子どもの路上のいたずらがきが、ひよんな事から当事者の眼にとまり、ちょっとしたアイデアから、あっという間に街の行事にまで拡がったのですから…。

私達は幼ない頃、いたずらをするとか遊ぶとか、何かをする時かならずと言っていくくらい「造形行動」をしていたように思います。それは、オンジャクで地べたに絵をかく事だったり輪ゴムを組み合わせて長いひもをつくる事だったり、クレヨンで石に色をぬったりする事だったと思います。

現代の子の遊びの中に、造形行動がみられなくなったのでは、という指適があり改めてみると確かにそういった行動が失われているということに気がきます。「造形あそび」という領域は、だからこそ設定されたのでしょうか。全国の様々な研究会でも「造形を子どもに返してやろう！」という声がきかれます。

私は、こうした造形行動はだからこそ学校の中だけの、ある時間だけのものに終わらせない視点を持たなければならないと思っています。造形あそびはこのようなねがいをかなえる大きなチャンスを与えられる場とおさえても過言ではないと思っています。

## 2. 実践の流れ

- ① 2年生全員で校庭のアスファルトに大きな絵をかくことにする。
- ② チョークでかくため、1カ月前位から先生方におねがいして使いふるしたチョークをとっておいてもらい、子ども達が集めた。
- ③ 6人一組で大きなものをかく。という条件で、何をかくか相談させた。
- ④ 製作開始、子ども達は初め、どうしたらいいかとまどい気味だったが、しだいに慣れてきて、動きも活発になった。

## 3. まとめと今後の課題

この実践で一番興味をそそられたのは、いたずらがきという、いわゆる遊び絵が、しだいに造形的な、創造的な絵に変わっていくことでした。初めは、ほとんどの子が、当時のはやりのマンガのキャラクターをまねたものだったのが何回かかくうちに、自分が考え出したもの、例えば、世界で一番長いひまわりだとか、首の長い怪獣だとか、広〜いお皿にりんごがいっぱいとか、そういった創り出す絵にかわっていくことでした。

私は、こうした変化をみて、大げさにいえば「現代の子だって、場を与えてやれば、ちゃんと、創造的な行動ができる」ということが、わかりました。

さらに、道具とか時間とか、計画とか手だてとか、あまり「こらない」。どちらかというところちょっとこれだけでは不自由だなあと思う位の中に、ひょっとして創造のエネルギーや、ヒントが秘められているのではないかという気がしました。

この実践は、とるに足らない日常誰もが経験していることだと思います。しかし、ちょっと視点を足元の子どもに向けた時、思いもかけないものが、みえてくることがあります。「造形を子どもに返してやろう」という課題は、こうした何気ない実践の中にこそ、あるのかもしれない。

〈提言〉 小学校・絵で表す

一人一人が喜びを実感する  
絵画指導をめざして



釧路町立富原小学校  
氏名 伊藤 恵理

## 1. はじめに

子どもと共に学び、試行錯誤を繰り返しながら、今年で経験年数6年目に入ったばかりである。勤務校が変わり、学担にならずにフリーという立場になり改めて自分自身の実践を振り返る機会を得ている。

私自身、5年間の図工の実践で、一人一人の可能性を引き出し、納得いくまで工夫し続ける子どもの育成をめざしてきた。しかし、教師の意図が強く反映しすぎたためか、「うまくかけない」と表現活動を楽しめない子どもを一部につくっていた。今回の授業では、子どもの思いが十分にできるように造形的表現活動過程を重視しながら、楽しんで活動できるように配慮した。

## 2. 研究の経過

現任校は、全児童数1,141名、教員数43名の大規模校である。毎年のように公開研究会を開き、職員研修の質が高く何事にも協力的である。今回の提言に先立ち、今までの低学年経験を生かし、担任の快い協力、指導を得て2年生の授業研究をする機会をいただけたのである。校内、町内研究会、教科サークル等の練り上げが十分でないため、不安と心のときめきが交差しながらも、子どもが自ら楽しく「絵で表す」表現活動ができるように文献等を参考に題材づくりから授業を構築し実践にいたったのである。

## 3. 指導の実際

### (1) 題材名 「とべ とべ ふうせん」

子どもたちが、日常の暮らしの中で必ず何度か目にしてきたと思われる風船は、身近かな題材である。その上、初めは丸い形を連想する子どもたちも、形や色にとらわれず「飛んでいると楽しいな」「面白いな」と感じるものを楽しく描き進めていけるようにした。

### (2) 児童の実態

子どもたちは、入学以前に絵の具に触れることはあっても、各個人で水彩用具を購入し、正しい使い方を習って制作するのは初めてである。

これからの使用をより楽しいものにしていくため、子どもたちの期待を大切にしたい。

### (3) 授業の展開

この授業での時間数は3時間とした。水彩用具の使い方を問答形式で図式化、説明したことに始まり、クレヨンを用いての線がきを行い、形にあわせての色づくりや着色活動とつながって授業が展開したのである。自分のペースに合わせて、バックをぬり広げる活動まで進ませた。

### (4) 子どもの反応

「絵を描くのが好き」と答えた子が約半数だったけれども、ほとんどの子が時間を忘れるくらい集中ぶりをみせたのである。

授業後も「楽しかった」「また来てくれるの…」という声もあった。さらに、カード記入においても、「上手にぬりたい」と書いていた子どもが多数見られた。

## 4. まとめと今後の課題

この授業で、子ども一人一人に先入観をもたず、子どもの様子に配慮しながら、支援し続けたと思う。

今後は、子どもに合わせてもっと多方面から題材をとらえ、授業にふくらみをもたせるとともに、子どものよさを記録化し、その蓄積をはかることで支援活動の充実をすすめたい。

子どもが喜びをもって造形的表現活動をし、自分のよさを実感できる授業の研究と実践を積み重ねたいと思う。

〈提言〉 小学校・絵に表わす

## 私のひみつ

帯広市立開西小学校  
氏名 山口 雅子



### 1. はじめに

子供が、自分の思いをそのままに表現することができると、心からの満足感を得るであろう。このような積み重ねをするためには、内在している思いを、どの経験からもありのままに表出し続けていくことが、大切だと考える。

それに、造形活動の中で、自分で見つけた色や形への感動や、工夫したことへの充実感を体験することも大切であると考えます。

そして、子供の創作意欲を自由に広げるために、表現の規制をはぶき、画材の幅を多く与える工夫も必要ではないだろうか。

このように造形活動への意欲をふくらませていくことを願って、次の実践を行ってきた。

### 2. 指導の実際

#### ①スケッチ

○「心に残ったこと」と投げかけをすると、遠足や運動会の行事を終えたばかりなので、ほとんどが似た題材になってしまった。「私のひみつ」をかこうと投げかけなおすと、様々な生活の様子を生き生きとした表情でかき始めた。

○ハツ切り半分の画用紙を教室に常置し、いつでも心のスケッチができるようにする。

○ふだんの教室でのできごとの中でも、絵になる場面を気づかせるための話しかけをくり返し行なう。

○画面のすみに、その時の気持ちや様子を短い

文を添え、題名をつける。

#### ②下絵かき

○スケッチの中から、一番かきたいものを選び好きな色や大きさの画用紙を選ぶ。

○かいているうちに補充がきくように、大きさの制限をせずに行う。

○スケッチをもとに、たて、横の配置、一番かきたいものの大きさや位置などの構成を考える。

#### ③色ぬり

○好きな画材を選んでぬる。絵の具、クレヨン、パステル、色鉛筆などを用意する。

○混色の援助、肌色、草木、土、空の色など多様な色があることに気づかせる。

○技法の援助、色画用紙の場合の水分の量、スタンプ、タンポなど多様な方法を示し、自分の絵にあった方法を選べるように、相談にのりながら行なう。

#### ④鑑賞

○友達や自分の絵のいいところを見つける。

### 3. まとめと今後の課題

導入段階の投げかけ方一つで、子供の発想がずい分ちがってくることに驚いた。「私のひみつ」をみんなにこっそり教えようと投げかけると、どんどんかきたいものを広げていった。又、かいたものをもとに話しかけると、楽しそうな表情で、ひみつの内容をいっぱい教えてくれた。

指導者は、この段階から子供が、かきたくなるような題材を見つけることが大切であると確信できた。又、画材の制限をはぶくことでも、どんどんかきたいものをつけ足しながら、広げていっているのはおもしろい。中には、つぎつぎとつなげ、4枚もの絵にした子がいた。まだまだ色の作り方、形についての援助を必要としているのだが、思い切りかいたぞ、という満足感が、味わうことができたのではないだろうか。

＜提言＞ 小学校・つくりたいものをつくる

思いや願いを大切にし、自らの表現を追究しようとする支援のあり方

北海道教育大学教育学部  
附属釧路小学校  
氏名 内山博之



### 1. はじめに

新しい学力観に立ち、子供のよさを生かし、自ら主体的に取り組んでいく学習を構築するには、どうしていけばよいか、大きな課題として問われる。

そのためには、子供自らの発意と方法で、子供自身が持っているよさや可能性を発揮しつつ造形的な資質や能力を身に付けていけるような支援をしていくことが大切である。

### 2. 研究の経過

造形活動において、子供が自分のよさを認識していくには、自分のためのふりかえり（自己評価）が不可欠である。つまり、子供自身が追究内容や方法などを確認し、自信を持って取り組み、自分のよさに気づき、自分が好きになるふりかえりをするのである。また子供一人一人の思考や技能などを高めていくには、子供が対題材や対材料・用具、対表現内容や表現方法そして対人間と深いかかわりを持たせることである。

### 3. 指導の実際

子供がより主体的な活動になるように、第4学年を例にとり次のように試みた。

(1) 自分の思考や技能を高めるためのかかわりの場の設定。

(ア) 題材名について

学習の導入段階において、ひもを引くと作品が動いて回る。参考作品を提示すると子供からひもを引くことのおもしろさや不

思議さに目を向け、「ひもを引ればば・まわるまわる」という題材名が出された。その後、材料や用具を自分で考えることにより、自分の願いや思いを基にイメージを膨らましていった。また、一人一人が様々な発想や構想まで発展させ、その子なりの創造性を発揮することができた。

(イ) 題材構成について

子供が主題（テーマ）や材料・用具そして方法・手段などを自ら考え、判断し、表現していけるよう題材構成を工夫した。「探検車をつくろう」という学習では、板材などの材料や鋸や金づちなどの用具を子供の思いや願いに沿って使えるようにし、楽しみながら自由に木を切ったり、組み合わせる活動から入るという体験の場を設けた。このことにより自分のつくりたいものを構想しつくっていく際、木の特徴や鋸や金づちなどの特質なども考え、機能性も工夫しながら取り組んでいた。さらに、時間を柔軟的に扱うことによる高次の自己実現を期待した取り組みになっていった。

(2) 学習したことを生かしたり、試したり、表現行為をふりかえるための場を設定。

表現追究段階において、友だちと制作途中の作品交流の場を設けた。その交流において子供たちは、まわり方の工夫を見つけたり、材料を付け加えたり、適切なやり方を知ったりして、自分なりの作品をつくりあげた。交流というふりかえりの場を通して学びの主体である子供自身が、自己の考えや表現を修正したり、取り組みのよさや学びのよさに気づいていった。

### 4. まとめと今後の課題

子供自らが、創造活動の基礎的な能力を自ら培っていくために、より主体的にかかわり、ふりかえりができるよう造形の観点別状況の資料を蓄積し、それをファイル化などしながら、その子なりの実態にあった支援をしていく必要を感じている。



〈提言〉 小学校・つくりたいものをつくる

子どもたちの思いをかなえて  
あげられる授業づくり



札幌市立厚別北小学校  
氏名 土肥 宏 充

### 1. はじめに

この頃こんなことを思っています。自分にとっての人生の喜びや幸せは何だろうか。教育に携わることの喜びはもちろんです。さて、仕事を離れた時の喜びは何だろう。楽しみは何だろう。

家族と一緒に過ごす時間（アウトドアライフ旅行、会話）曲作り、バドミントン、ステンシル版画、……これは、私個人のきわめて個人的な喜びなのでしょう。それは、外の誰でもない私の楽しみであり、喜びであると思います。外の人には、これとは違う、しかし同じほどの、いやその大きさもそれぞれ違う喜びや楽しみがあるはずです。

そこなのです。子どもたちの喜びもきわめて個人的だと思うのです。それは、小学校教育での教科指導においても例外ではないのではないかと考えているのです。

### 3. 研究の経過

図工科においても根本には、そのような考えを置きながら進めていくようにしたいと思っています。

かけるかけないということにこだわらないこと、つくる技能にこだわらないこと、大切なのは、その個人に、個人的に教師がかかわっていくこと、そうすることでその子の思いにきわめて近い形になるように支援していくことです。

36人の子どもたちに個人的にかかわっていくことは、とても難しいことだと思います。しか

し、できる範囲でいいと思うのです。その時間できる限り個々に関わって支援してあげる努力をしていく。一緒になって助けてあげようとする、それが大切なのではないでしょうか。

### 3. 指導の実際

子どもたちに困難に立ち向かっていく経験をさせたいといってわざと教えない、自分で考えてごらん、材料も自分でそろえなさい、人に頼ることをさせないためにそういう自立の仕方を育てるという考え方は、間違っていないのかも知れませんが、いっそのこと、安易に教えてしまうこと、教師がアイデアを考え、教えることの方が自立を育てることになるのかもしれない。

また、その個人に個々に関わる支援を効果的に行うときに一斉の指導があると思うのです。一斉指導をやらないのではなく、一斉指導の意義づけをはっきりさせ、授業に取り入れていくこと、たとえば、ある場面で、多くの子どもたちに効果的であると判断したなら、作業を中断させて従来のように一斉指導という支援をおこなうことも大切になるのではないのでしょうか。そのようなことを考えながらいくつかの実践をしてきました。「君のたまごから何が生まれるの」「開けてみられる私の夢」「わたしの愛する〇〇さんへ」…などです。

### 4. まとめと今後の課題

図工科は、大変自由な教科です。また、育てていくものも技能的なことを除けば、人間の生き方にかかわるとても根本的なことです。そうであるならば、そこに、テーマは共通でも個人差をいつでも許容した題材づくりというアイデアが浮かんできます。それは、同じ題材を1～6年の全学年で取り組んでもよいということです。いいかえると、どの題材が、どの学年にふさわしいということはないということになります。大切なのは、その学年でおさえる発達段階と個人的成長段階です。これは、国語教育と相通ずる考え方があります。

〈提言〉 中学校・平面表現（版画）

### 紙を素材とした版表現の工夫

標茶町立上御卒別中学校  
氏名 早川 弘



#### 1. はじめに

「紙」は、われわれにとってきわめて身近な存在であり、生活の中で日常的に目にし、手に触れ、なにげなく扱っている。「紙」は和紙、洋紙を合わせると種類も多く、質も多種多様である。図工、美術の分野でも「紙」の占める範囲は広く、表現方法も多様である。

版画の世界においても「紙」による版は様々であり、小学校低学年から中学校3年生までそれぞれの発達段階に合わせて対応できるという優れた特性を持っている。「切り絵版画」ではカッターという手軽な用具1本で版を作ることができ、子どもたちの抵抗も少ない。表現は白と黒の明快な画面が得られ、そのことによって子どもたちの感覚を刺激し、共感を得ることができると考える。

#### 2. 研究の経過

「切り絵版画」はカッター1本と用紙があれば製版できることが最大の利点である。そのため、子どもたちにとっても抵抗が少なく取り組みやすい教材である。このような長所を生かして小学校中学年から中学生まで、発達段階に合わせて題材を選び、制作に取り組ませる。

中学年には、切り取ったところが白くなる凸版の原理を理解させることができ、木版画の導入にも有効である。高学年では、単純な形や構成から複雑なものへ移行し、更にカッターだけでなく三角刀や丸刀、その他様々な道具の活用を考えさせ、表現の範囲と可能性を広げていく。

中学生では、これまで積み重ねてきた知識や

技術をもとにし、それらに自分の創意工夫を加え、より質の高い表現に発展させていくことができる。

#### 3. 指導の実際

「切り絵版画」の制作を10時間の指導計画で設定する。子どもたちは、版画というと彫刻刀で彫り、ばれんやプレス機で刷るというイメージを強く持っている。版画を指導する場合、導入の段階で「版画は絵画である。」ことをしっかりと認識させることが大切である。

従って、導入を含めて下絵（版下）を描くのに4時間は必要である。この時、絵の中に孤立した部分がなく、他の部分とお互い繋がった構成になるように参考作品を提示しながら、理解の徹底を図ることがポイントである。

版の制作には、カッターナイフを中心に用いるが市販されているものでは、刃を1枚1枚差し込んで使うNT400が最適である。そして刃はいつも滑るような切れ味で使うこと、切れなくなったらすぐ取り替えることで良い版をつくることができる。また、三角刀や丸刀を使うことで面白い効果を生み出すことができる。身の回りにあるものを用具として考えさせることも大切なことである。版を制作する用紙はケント紙（135kg）が厚さも手頃で扱いやすく丈夫でプレス機の圧力にも耐えられるので沢山の作品を刷ることができる。

刷りの方法には、ばれんとプレス機による2つがある。共に経験させ、それぞれの特徴を理解できるよう配慮すべきである。刷りの学習をする中で、インクの練り方、ローラーの使い方に習熟し、自分の作品を自分で刷りあげることによって次への制作の意欲を高めることができる。

#### 4. 今後の課題

紙はちぎる、切る、折る等自由に加工できることから、学年の別なく親しめる素材である。この紙の長所を最大限に生かして版表現の範囲を広げ、多色版にも発展できる。低学年の楽しいものから高学年、中学生のより高度な表現もできる。今後の指導の中で試行していきたい。

〈提言〉 中学校・平面デザイン

自然物・人工物を通して感動すること、それが意欲につながり高めていこうとする意欲を

苫小牧市立凌雲中学校

氏名 今多博勝

## 1. はじめに

思考することを嫌い、深めていくことを面倒がる……最近、物を考え深めていこうとする意欲が少なくなっている。すぐ「わかんない」「どうすればいいの」という質問がとび出す。彼等には何か公式的なものがあり正解が用意されていなければ不安なのである。

美術の出発点は感動であり、個性を通して表現することであるはずなのだが、画面をひと通り色をぬると終わったという、もう少し「工夫できないか、深めることができないか」という問いかけに「面倒くさい」。美術は限りなく、betterを求める学問であるはずだが。

## 2. 導入時にたっぷり時間をとる

導入時にたっぷり時間をとる、理解できないではなく、美術の出発点は感動である。またそれらをどう表現してみたいという意欲、それらをどう引き出していくかが、大きな問題である。そこで導入部に十分時間をとり、感動を見つける方法、教材の目標、思考の仕方、表現の方法など納得のいくまで指導。ただし作品例はできるだけ少なく、最少限にしぼってみた。何故なら、あまり多く提示することにより自分の表現したいと思っていることと、もうすでに類似した作品があるからである。たとえできあがった作品が平凡であっても、それは自分で感じ、自分で表現したことを大切にしたい。

## 3. 指導の実際

●何を表現したいか、どういうふうに表示したいのか、まだまだ工夫できないか。

(1) だまって座って話を聞く、感動とか、表現とかは個人的なものである。したがって私は手助けをする、じっくりと問いかける、よく話を聞き、要点を整理しアドバイスする。

(2) 教えない、ややもすると、教えすぎてしまい、個人の発想～考えていることから離れてしまい、教師の考えていることを押しつけてしまうことがよくある。また、頼りすぎて自分で考えてみようという意欲を失わせることがある。すぐ先生どうするのということになりかねない。

(3) あなたはもっと工夫できないか。

ややもすると画面にひと通り色を置いてしまうと終わった。もっと高められないか、もっと工夫できないか、もっと良い表現方法はないか、などしつこく問いかける。美術に完成ということはないことを知らしめる。

(4) 今回の作品は前とくらべてどうか。

スケッチブックをめくらせ、前の作品とくらべさせる。他の人との作品の比較もあるが、自分自身が高まりをみせたかどうかを問題とする。

## 4. まとめと課題

作品の質をどう高めていくか。

(1) 美術教師であれば当然、作品の質を高めたいと願うのは当然のことと考える。しかし、私の方法では質の高まりはあまり期待できないようだ。ましてや、他教科のように全員が100点などという目標は成立しない。あえて目標とするならば、自分としてどう目標にせまっていたかが問われる。

(2) 美術教育は、芸術家を育てるための教科ではない。たとえ表現することがにがてでも感動する心、美しいものに関して求める心、そんなものが身につけば、最低限の目標は達成されたと言っているのではないか。

＜提言＞ 中学校・立 体

つくり上げる喜びが感じられる  
工芸指導はどうあるべきか

釧路町立富原中学校  
氏名 佐藤 秀 貴



## 1. はじめに

工芸では、ものをつくり出す行為の価値を認識させるところに教育的な意義がある。機能性を考え材質の美しさを生かし、技法を工夫して製作することも生活の実践力の基盤づくりにもつながっている。

「身近で使うものをつくる」という題材では、一枚の板を自分の計画によって、使える物に変えるという活動を通し、作品を生活の中に活かすという目的を持っていた。この題材で作品に対する思いを強めてほしいという願いもあった。

## 2. 研究の経過

校内の研究の視点は「自ら学び続ける力を育てる」ということであった。この「自ら学ぶ力」には生徒一人一人の意欲が大きく関わってくるので、それぞれの題材でどのように生徒の意欲を喚起させるかということが大切になってくる。

### ○工芸での研究

工芸は発想から製作完成までの過程の中で、先を見通しながら計画性をもって取り組んでいく題材である。アイディアスケッチから材料選び、設計図、木取りなどの創作活動一つ一つに、「物を作り上げる喜びが感じられるような指導方法はどうあるべきか」ということをいつも考えながら授業を進めているつもりだが、まだまだ、効果的な指導法は試行錯誤の段階であるので、これからも研究を重ねていきたい。

## 3. 指導の実際

◎実践 「身近で使うものをつくる」(中2)

指導目標・製作の条件を理解し、機能や美を考えて作品づくりをする。

- ・用途や材料をもとに構想を練ることができる。
- ・材料を有効に使い、用具の使い方を工夫し表現する。
- ・工芸の良さや美しさを味わう。

この実践での一番のねらいは一枚の板も自分の発想や計画によって、カセットラックや鉛筆立てなどの身近で使えるものをつくることができるという経験をさせることにあり、店で売っているものにはない独自のデザインのものや「こんなものがあったら便利だ」というようなものなど、発想を豊かにさせることで楽しさも出てくれればという願いもあった。教科書や教師の用意した参考作品に似たものを製作する生徒も数名いたが、用途とデザインの優れた作品も数多く見られ、生徒一人ひとりの創作意欲が感じられた。

## 4. まとめと今後の課題

工芸は生活と深く結びついている創作活動なので、今回の題材では作品を自分たちの家でいつまでも使ってほしいという願いもあった。

何年か美術の授業を行ってきて感じることに、作品に対する思いが弱くなってきているということが上げられる。自分が苦勞をして作りあげた作品を授業が終わった後、いとも簡単にゴミ箱に捨ててしまう生徒がいることは残念なことである。「なぜ、あんなに苦勞したのに」という思いをすることが何度もあった。

その原因を探っていくと、授業の進め方もあるかもしれないが、一番の原因は題材の与え方にあると思われる。「こんなものがつくりたい」という生徒の欲求がどのように生まれてくるのかを研究し、魅力ある題材づくりに力をそそいでいくことが今後の課題である。

＜提言＞ 中学校・立体

### 立体造形活動について考える



江別市立野幌中学校  
氏名 伊藤正清

#### 1. はじめに

生徒の心にうずまく様々な模様を、造形活動によって表現することに集中させたい。

私は、今の社会環境の中で、自分自身を見失っている生徒が多くいるのではないかと思うのである。自分自身を見失うことは、人間性を見失って、人間はヒト（人）でなくなり、いじめの対象であるモノ（物）として扱う。また、欲求不満を解消するモチーフ（対象物）として描く。そこに「愛するか」「優しく思いやる心」の欠如が表現される。空しい作品が、授業から生まれ消えて行くことになる。

#### 2. 研究の経過

美術教師としての造形活動は、まだまだ底が浅い私である。しかし、以前として受験体制の社会で自分自身を確立できずにいる多くの中学生に「何か」を求めて来た。

まさしく、その「何か」が造形活動である。絵画の分野だけでも、美術教師にとっては大変な精神力が必要となって来る。今、四ツ切の画用紙に納得のいくまで表現させるには、苦痛を伴う精神力が教師にも、生徒にも要求される。

今、美術教育は、遊びの中に埋没し、個性を見失いつつある。創造性は活力を失い、脱け殻となり、そこに高さや、幅のない立体が存在してしまうのである。

安易に、多くの市販教材の氾濫に頼ってしまい、画一的な作品が生まれてしまった。これでいいわけではない。猛省しなければならない。

#### 3. 指導の実際

頭像、握った手、動きのある人物、木彫額、彫金、と造形活動に力を入れる授業に切り替え努力を続けている。

##### (1) 立体作品

立体的な作品をつくる時、立体としての形量感を表現する場合、とても難しい。また均衡動勢となると、はたして生徒自身が理解するには時間がかかると思う。生徒のとまどいが多く感じられる授業となる場合が多い。専門的な言葉が多く、途中で面倒くさくなり、投げ出す生徒もでてくる始末である。

デッサンから造形活動と進むより、いきなり造形活動へと進む授業へと切り替えた。

不十分な描写力では、立体作品はでき上がってこない。そこで、直接立体にデッサンをし、制作するように指導している。

また、私自身も教材研究を十分にして、計画をしっかりと立ててから、取り組むようにしている。時間的に、かなり無理がかかるが、納得できる作品、深さがある作品、幅がある作品を求め続けている。忍耐が必要である。

#### 4. まとめと今後の課題

立体作品の制作が、厚みのある人間形成に役立てばいいと考える。

形を造り出していく過程には、観察して造る制作がたえず求められる。だが、自分で考えて制作する姿勢が欠如してきている。

よく見てかきなさいと指導するが、はたしてそれが正しいと言えるかどうかである。見てから形に入るより、形から見る指導。見て造りだすより、造りだしてから考えて制作する指導へと考える。

美術教育が、あまりにも同じスタイルで続けては、創造性のある作品が生まれてこないし、後退するのみである。

デッサンからすべてが始まる固定観念を捨てての授業の展開は、新鮮ではあるが、生徒指導の充実なくしては実践できないのである。

さらに勉強していきたいと思っている。

〈提言〉 高等学校・イラスト

自己を見つめ、個を表現する  
展開例を通して



釧路北陽高等学校  
氏名 久保 克 洋

## 1. はじめに

現代の科学、技術の進歩はめざましく、私たちは、メディアによって広範な知識と種々な経験を得る機会が多くなりました。その中でも私たちの目に入ってくる世界は、映像の発達と共に日々拡大し、ミクロの世界から宇宙の姿までその場で知ることができるようになりました。

もはや、映像の伝達なしでは、現代の社会は成立不可能の状態であると考えられます。そのような社会の中で生活し、常に受け身になっている私たちは、ともすれば自分を見つめる余裕すら失いがちになっています。このように変化が激しく情報過多の現代社会では、人間性の回復が叫ばれています。

## 2. 研究の経過

生徒一人ひとりが何を考え、何を訴えようとしているのか、希望や憧れ、迷いや悩み、矛盾や抵抗、無気力で自己を見失いがちな生徒も、精神的に悩める生徒も心に秘めたる何かを持っている、他の教科が「こうあるべきだ」と学ぶ事が多い中で美術の表現活動は、自分で制作の公式を作り答えを創造し表現することができる教科である。数字に置き換えると、 $1+1$ が3になっても、 $2+2$ が5になりうるところに、主体的で自由なおもしろさがある。何をどのように表現するかを自分で決定することは楽しいことではあるが、同時にそこには「勇気と真剣さ」が求められる。そのためには何をどのように、

どのような技法と素材を用いて表現するかの方  
向づけを教師がしてやる事も必要であると考え、  
テーマを「人間」と設定した。イメージ作りの  
段階で、生徒の意欲を高める工夫と展開を試み、  
その過程で、デッサンを苦手とする生徒も容易  
に表現できる方向づけと評価方法の改善も進め  
てみた。生徒の持っているイメージ作りの過程  
を大切にすることは、一人ひとりの個を尊重する  
ことであり、生徒の秘められた、内心に迫る自  
己表現の場として、又、自己アピールの機会と  
してとらえている。

## 3. 指導の実態

題材の設定にあたり、その表現方法や技法、  
技術表現に必要な材料、用具は全て自由とした。  
イメージ（アイデア）作りに力を注ぎ、デッサ  
ンの抵抗をできるだけ少なくするため、身体の一  
部分のみを取り入れるだけでもよく、又抽象  
でも、心象でも人間を表現するための範囲を広  
義に考える事によりイメージの自由さを発揮で  
きるよう配慮して来た。より多くの参考作品を  
紹介することにより、同年代の共通した道徳観、  
価値観の相違にふれさせ、「真剣」に考え表現  
してみようとする雰囲気作りと作品に対する責  
任感を持たせることに力を注いだ。

A. スライド鑑賞 B. 合評会 C. 美術ノート  
の活用 D. 評価方法

C、Dの観点を明示すると共に、点数化し、  
自己の努力の足跡が見えるようにした。その後  
のアンケートの結果は別紙説明とする。

## 4. まとめと今後の課題

専任の美術教師削減が続く中で、高校間での  
実践交流の機会が少ないため、適切な資料の収  
集を始め、共通した課題等の研修が不足してい  
る現状を踏まえ、情報交換が今後一層必要であ  
ると感じる。又小中学校との連携により、適切  
な教材の選択、配列を行ない、系統的な指導体  
制を確立することで、より効果的な表現活動が  
期待され、その体制作りも課題の一つとして残  
される。

〈提言〉 特殊学校(精)・工 作

楽しく活動できる授業づくり  
— びんを使って人形を作ろう —

釧路養護学校  
氏名 吉田 后 余



### 1. はじめに

造形的活動は、子供の心身の発達にかかわって重要な役割と意味を持っている。とりわけ知的発達に遅れを持つ子供にとっては、活動そのものが心身の発達を促す大切な動機となり、その意義はさらに大きいものとする。

知的障害の教育において、教科別の指導とは、まず、領域・教科を合わせた指導が展開され、ここにおける学習の偏りを修正し、学習の過程に系統性を与え、さらに反復練習の機会を与えるために計画されるものである。領域・教科を合わせた指導において、子供たちが能力に応じた社会生活や職業生活に必要な知識、技能、態度を身につけさせることができるのであれば、あえて、教科別の指導として国語、算数(数学)、音楽、図工(美術)等を時間を設けて指導する必要がないわけであるが、実際には、十分ではない点を補うために教科別の時間が設けられている。本校では、このような考え方に従って、造形活動は、領域・教科を合わせた指導(生活単元学習)と教科別指導との両面で行っている。

先に述べたような点を念頭に置きながら、授業の計画や進め方を考えるに当たって、子供の自発性を大切にすること、そして、ひとりひとりの興味や関心を大切にすることに十分な配慮をはらう必要があると考える。

このことについて具体的なこととしては、題材設定や教材提示は、学習への導入が容易で意欲を引き出しやすく、学習への参加が積極的となり、

持続するものが求められる。また、表現活動には本来的に優劣の問われるはずのないものである。どのような表現であっても子供自身の活動意欲の現れとして、子供と共に驚きと喜びを分かち合う姿勢が求められる。教師や回りの大人たちのこうした共感的な態度によって、子供の人格がより一層豊かに高められていくものと思われる。

活動に用いる材料や道具(はさみ等の刃物類)のとりあつかいは、適切に安全に対する注意を意識させなければならないが、知識、技能をことのほか強く要求するあつかいは、先の点でなるべく慎むようにしたいものと思う。

### 2. 研究の経過

生活単元学習の年間計画をなぞってみると、3月の節句にちなんだひな人形作りがあり、12月には、クリスマスに向けてサンタクロースの形を作って飾ったりする。目的や意味づけによって子供たちの制作意欲が喚起され、行事そのものへの関心も高められていく。また一方では、人形作りそのものが子供にとって楽しく、それぞれにユニークなできばえを認め合い、満足できるのではないかと考え、取り組んでみた。

指導の対象は、小学部4年生の3人の児童(男子2名、女子1名)。女子が、表出言語を持たずやや自閉的傾向が見られるが、配慮を加えることによって活動にある程度集中できる。男子2名は、言葉を聞き分ける力もだいたい備わっており、説明や見本の提示によって作業への見通しを持つこともでき、かなり活動を継続できる。

材料は、あきびんや包装紙など身近にあるものを中心に用いるようにした。また、制作工程は、子供たちにとって、できるだけ簡単な方法で行えるようにし、子供自身の工夫が表しやすいように考えた。

### 3. まとめと今後の展望

知的発達に遅れを持つ子供は、言語や行動の面で理解と力の及ぶ範囲は狭められてはいるが、造ることへの意欲や充足感、健全児のそれと全く変わるものではない。今後の実践においても、このことを踏まえて、工夫に努めたいと考える。

＜提言＞ 全道造形教育  
ネットワーク分科会

造形教育の全道ネットワークづくりを通して北海道の造形教育の明日を考えよう。

北海道造形教育連盟本部事務局・研究部

### 1. はじめに

学校教育も時代の流れの中で再構築の時をむかえています。特に週5日制の完全実施を見通して教科の枠付けを見直す論議や新たなシステムをつくらうとする先行的な取り組みをはじめている学校もでてきています。

中学校・高校の美術選択などの問題も含めて図工・美術の将来像が心配になりつつあるといってもいいかもしれません。

子どもの創造性や夢を形や色に表現する図工・美術がさらに発展していくことを願ってネットワークを組みましょう。

### 2. ネットワーク分科会の内容

参加者…各支部最低1名は参加ください。

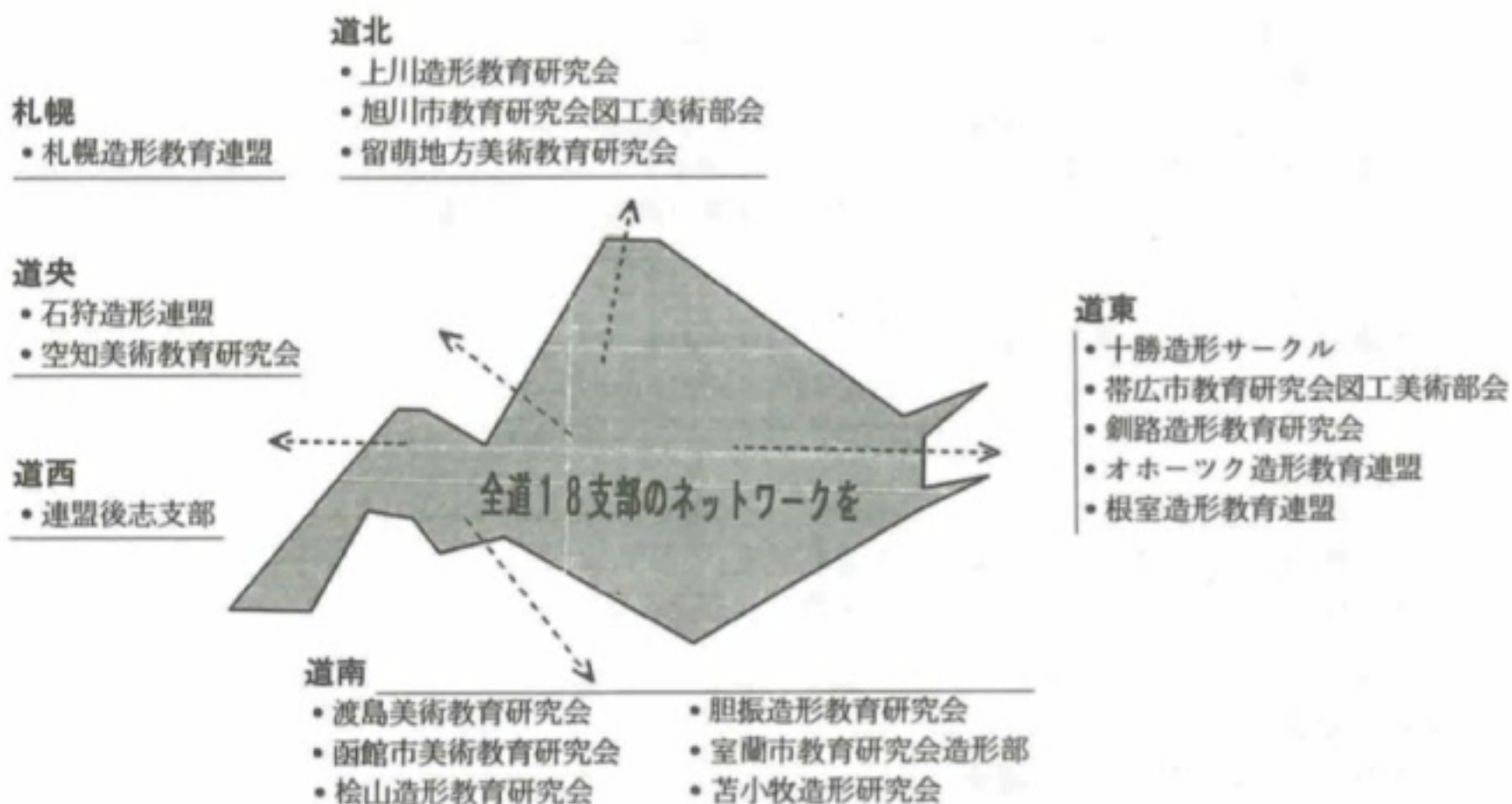
その他内容に関心ある方はふるってご参加ください。

内容…主に以下のような内容を計画しています。

- 各支部の実情交流
- 名簿の交換
- 連盟研究部作成の造形ビデオの試写会  
(各支部に1本提供します)
- 実践事例集「創造21」(研究部作成)掲載の実践例紹介
- 今後の交流を展望する討議

造形学習を通して、子どもの創造性を伸ばしたい。個性的表現を期待したい。子どもの意欲的な活動を体験を通して活発に展開したい。北国のオリジナリティーある教材を開発したい。など多くの願いを持って全道各地で造形教育に携わる仲間が、1年に一度心と心の交流をしましょう。

励まし合いながらこれから一年のエネルギーを注ぎ込みましょう。





# 北海道造形教育連盟規約

## 1. 名称と目的

本連盟は、北海道造形教育連盟といい、北海道造形教育の振興を図るをもって目的とする。

## 2. 事業

本連盟は、目的を達成するため次の事業を行う。

- ① 研究会、講習会、展覧会等の開催及び後援
- ② 造形教育に関する教科書、教材、教具等の研究
- ③ 機関誌の刊行
- ④ 他の造形教育団体との連絡提携
- ⑤ その他造形教育振興上必要な事項

## 3. 会員

正会員 本道幼・小・中・高・その他これに準ずる学校の教職員

賛助会員 本連盟の目的に賛同するもの

## 4. 組織

サークル 本道各地にサークルを置き、会員は原則としてこれに所属する。

本部 本連盟の本部は札幌に置く。

## 5. 構成及び任務

### ① 役員

委員長 1名 本連盟を代表する。

副委員長 若干名 委員長を補佐する。

会計監査 2名 会計の監査をする。

### ② 委員

地区委員 地区1名 地区サークルを代表する。

常任委員 若干名 本連盟の運営に当たる。

顧問 連盟の重要な問題につき意見を述べる。

## 6. 選任

\*委員長、副委員長、会計監査は委員総会で選出する。

\*地区委員は地区サークルで選出する。

\*常任委員は委員長の委嘱による。

\*顧問は委員総会において委嘱する。

## 7. 任期

役員及び委員の任期は1カ年とする。但し重任を妨げない。

## 8. 会議

\*総会 必要に応じ開催し、連盟事業につき協議する。

\*委員総会 役員、委員をもって構成し毎年開催する。

役員を選出、予算、決算及び年度計画等につき審議する。

\*常任委員会 役員及び常任委員をもって構成し、連盟の事業を執行する。

## 9. 会計

本連盟の会計は、会費・事業収入及び寄付金により執行する。

会費 正会員は1人年額1,000円を納入するものとする。

サークルは、年額8,000円を本部に納入するものとする。

## 10. 事務局

\*事務局は事務局長在勤の学校におく。

\*事務局長は常任委員中より委員長が委嘱する。

\*事務局には必要に応じて各部を設け業務の分担をする。

## 11. 年度

本連盟の事業並びに会計年度は5月に始まり翌年4月に終わる。

## 12. 規約の改廃

本規約の改廃は委員総会の議決による。(平成6年4月29日改定)

平成6年度 北海道造形教育連盟名簿

1994.5

役員

役名	氏名	勤務校	所在地	電話
委員長	鹿嶋 健	札幌市立栄町小長	065 札幌市東区北36条東13丁目	011(752)4130
副委員長	川島 信也	旭川市立東光小長	078 旭川市東光18条6丁目	0166(32)9958
"	稲船 正男	標茶町中茶安別小中長	088-23 川上郡中茶安別基線35	01548(8)6133
"	和田 弘	恵庭市立恵庭中長	061-14 恵庭市文京町79	0123(32)3249
"	金谷 彊	函館市立旭岡小長	042 函館市西旭岡町1丁目33-1	0138(50)2867
"	船着 昭弘	札幌市立伏見小長	064 札幌市中央区南18条西15丁目	011(551)2771
監査	山宮 喬也	北見市立緑小長	090 北見市緑町2丁目1-1	0157(36)2688
"	寺本 吉明	芽室町立芽室小長	082 河西郡芽室町東4条南2丁目1	0155(62)2106

本部事務局

役名	氏名	勤務校	電話	役名	氏名	勤務校	電話
事務局長	白井 圀毅	真駒内南小長	(581)0221	研究部長	菅原 清貴	三角山小	(643)1133
事務局事務長	伊藤 善彬	白石小長	(861)2341	次長	阿部 宏行	中央小	(261)6568
"	多田 紘一	柏 中	(521)2341	"	篠原 寛	宮の森小	(631)6356
"	香西 富士夫	札幌平岸高	(812)2010	"	桜田 豊	幌西小	(561)2201
会計部長	吉田 倭雄	福井野小長	(664)5551	"	斉藤 三佳	白揚幼	(736)0764
次長	植木 則子	桑園小	(611)4211	"	柏木 順	手稲中央幼	(681)2298
庶務部長	佐藤 靖	三角山小	(643)1133	"	岡澤 邦彦	附属中	(778)8527
次長	池田 悦子	円山小	(631)3437	"	八重樫 真一	啓明中	(561)4168
"	今谷 孝	平和小	(663)4384	"	角力山 旭	陵北中	(621)1225
"	高杉 正和	啓明小	(561)4168	"	小林 智彦	札幌南高	(521)2311
広報部長	毛馬内 國夫	桑園小	(611)4211	事業部長	藤井 正治	厚別東小	(898)4650
次長	中居 正光	東札幌小	(821)6333	次長	小柳 雄嗣	琴似中央小	(631)6306
"	元茂 章子	美しが丘小	(884)9860	"	稲實 順	創成小	(241)1756
"	今 裕子	真駒内緑小	(582)2131	"	白井 真澄	前田小	(683)3749
"	伊藤 尚	上野幌中	(895)0531	"	田口 和男	月寒東小	(851)7924
				"	土井 善範	伏見小	(551)2771
				"	阿部 時彦	南が丘中	(571)3775
				"	開沼 英則	札幌東陵高	(791)5055

事務局

〒005 札幌市南区真駒内泉町3丁目

札幌市立真駒内南小学校 白井 圀毅

TEL (011) 581-0221

全道造形教育研究大会の開催地と研究主題一覧

- 第1回（札幌）1950  
情操教育の一環として本道図工教育の進展を図るため。
- 第2回（札幌）1952  
美術教育の新思潮である創造主義美術教育の諸問題について。
- 第3回（旭川）1953  
美術教育の指導とは何か。
- 第4回（函館）1954  
図画工作教育実践上の諸問題について。
- 第5回（釧路）1955  
図画工作教育における学習指導上の問題点の解明。
- 第6回（札幌）1956  
造形教育において、つくり出す力を養うにはどうしたらよいか。
- 第7回（室蘭）1957  
のぞましい造形教育における具体的諸問題について。
- 第8回（小樽）1958  
図画工作学習によって児童生徒の人間性がどのように培われるか。
- 第9回（帯広）1959  
新段階における造形教育のあり方。
- 第10回（網走）1960  
本道における造形教育の実践を通して今後のあり方を見よう。
- 第11回（滝川）1961  
子どもたちの芸術性を育てるために私たちは何を与え何をすべきか。
- 第12回（名寄）1962  
子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第13回（余市）1963  
子どもが生活を見つめて造形的に高まっていくために私たちはどうしたらよいか。
- 第14回（札幌）1964  
子どもの造形能力とは何か。
- 第15回（稚内）1965  
子どもの造形能力とは何か。
- 第16回（室蘭）1966  
子どもの造形能力とは何か。
- 第17回（函館）1967  
指導の構築を具体化する。
- 第18回（苫小牧）1968  
指導の構築を具体化する。
- 第19回（札幌）1969  
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第20回（旭川）1970  
ゆたかに生きる子どもの造形能力をどう育てるか。
- 第21回（札幌）1971  
造形能力は、どのような指導によって育てられるか。
- 第22回（帯広）1972  
未来に生きる子どもの造形教育（生活に根ざした造形教育をどう高めるか）。。

- 第23回（室蘭）1973  
未来に生きる子どもの造形教育（たしか  
な表現力をどのように育てるか）。
- 第24回（美幌）1974  
未来に生きる子どもの造形教育（ひとり  
ひとりの子どもの表現力をどう高めるか）。
- 第25回（江別）1975  
未来に生きる子どもの造形教育（自ら創  
り出す力をどう育てるか）。
- 第26回（岩見沢）1976  
未来に生きる子どもの造形教育（すべて  
の子どもの造形のよろこびを）。
- 第27回（札幌）1977  
（第30回全国造形教育研究大会とかねる）  
みずみずしい中味でしなやかな子どもを  
育てる造形実践。
- 第28回（函館）1978  
みずみずしい中味でしなやかな子どもを  
育てる造形実践（すべての子どもが生き  
生きととりくむ学習）。
- 第29回（旭川）1979  
生き生きとしたゆとりのある子どもを育  
てる図工美術教育のあり方。
- 第30回（苫小牧）1980  
ひろがりやと深まりの造形教育を求めて。
- 第31回（釧路）1981  
創り出す心をよびおこす造形教育
- 第32回（室蘭）1982  
見る、知る、感ずる、そして創りあげる  
喜びを。
- 第33回（留萌）1983  
生活とふれ合い、創る心のひろがりをも  
つ造形活動。
- 第34回（札幌）1984  
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活  
動（わきたつ発想・たしかな表現・つく  
り出す喜び）
- 第35回（函館）1985  
知恵とエネルギーをわきたたせる造形活  
動（心をこめてつくりだす子どもを育て  
る）。
- 第36回（旭川）1986  
（第39回全国造形教育研究大会とかねる）  
子どもの心をゆり動かす造形教育（つく  
る心のひろがりをもつ）。
- 第37回（紋別）1987  
子どもの心をゆり動かす造形教育（表現  
の喜びにひたる子どもを育てる）。
- 第38回（滝川）1988  
子どもの心をゆり動かす造形教育（ひた  
むきに創る心を育てる）。
- 第39回（帯広）1989  
子どもの個性的表現を授ける造形教育の  
充実（君はいま創造のとりこに）
- 第40回（苫小牧）1990  
広がりと深まり、そして感動を
- 第41回（札幌）1991  
子どもの個性的表現を授ける造形教育  
（子どものつくる喜びをひろく）
- 第42回（函館）1992  
子どもの個性的表現を授ける造形教育の  
充実（感動、そして創造する喜びを）
- 第43回（旭川）1993  
思いをあたため心はずませ創る喜びを。
- 第44回（釧路）1994  
心ときめく、創造の喜びを求めて

## 第44回 全道造形教育研究大会（釧路大会）役員

大会長	鹿島健	(北海道造形教育連盟委員長)
副大会長	稲船正男	(北海道造形教育連盟副委員長)
	川島信也	( " )
	和田弘	( " )
	船着昭弘	( " )
	金谷彊	( " )
顧問	切石城司	(北海道教育庁釧路教育局長)
	矢口正光	(釧路市教育委員会教育委員長)
	角田憲治	(釧路市教育委員会教育長)
	相馬政雄	(釧路管内町村教育委員会連絡協議会教育長部会長)
	阿部孝策	(釧路市小中学校校長会長)
	高橋兼夫	(釧路校長会会長)
運営委員長	稲船正男	(標茶町立中茶安別小中学校校長)
運営副委員長	柳悟	(釧路市立城山小学校校長)
	坂下敦子	(釧路市立柏木小学校校長)
	三枝佑嘉	(釧路町立別保小学校校長)
	長尾忠也	(釧路市私立幼稚園連合会研修部長)
	堀内小夜子	(釧路豊川幼稚園)
	鈴木徹二	(ひぶな幼稚園長)
運営委員	中村彰	(白糠町教育委員会指導室長)
	大森正明	(釧路市立景雲中学校教頭)
	中島欣也	(厚岸町立床潭小学校教頭)
	渋木弘志	(厚岸町立太田中学校教頭)
	白石富男	(釧路市立春採中学校教諭)
運営委員会顧問	佐藤潔	石橋巖
	宗廣義彦	伊藤博道
	西弘治	牛来信春 (厚岸町立太田小学校校長)
	岩田廣	川瀬敏夫
大会事務局	釧路市立柏木小学校	
事務局		
事務局長	中村紀雄	(釧路市立柏木小学校教頭)
事務局事務局長	奥田泰朗	(釧路市立東中学校)

研 究 部	部 長	森 富 輝 (釧路市立美原中)			
部 員		内 山 博 之 (釧路教育大学附属小)	吉 野 喜代子 (釧路市立緑陵中)		
		工 藤 朝 博 (釧路教育大学附属中)	久 保 克 洋 (釧路北陽高校)		
		津 田 宏 明 (釧路市立弥生中)	藤 田 眞 輝 (釧路養護学校)		
		中 島 郁 子 (釧路市立湖畔小)	伊 藤 恵 理 (釧路町立富原小)		
		小 野 三枝子 (釧路市立柏木小)	中 島 健 朗 (釧路市立城山小)		
		平 野 史 子 (釧路市立日進小)	生 田 和 江 (釧路市立清明小)		
		太 子 弘 和 (釧路市立大楽毛小)	高 橋 潤 (鶴居村立鶴居中)		
		古 川 史 実 (釧路市立東中)	北 山 貴 子 (標茶町立阿歴内中)		
		池 貝 達 也 (釧路豊川幼稚園)	今 野 鈴 子 (ひぶな幼稚園)		
		池 田 奈 美 (ひぶな幼稚園)			
記 録		松 井 美代子 (釧路市立爱国小)	慶 伊 伸 子 (釧路市立芦野小)		
		里 見 勝 之 (白糠町立庶路小)	中谷内 遵 (白糠町立白糠小)		
		吉 田 ゆうみ (釧路市立美原中)	大 橋 拓 (釧路養護学校)		
		松 久 充 生 (釧路工業高等学校)			
事 業 部	部 長	釜 范 健 (釧路市立鶴野小)			
部 員		田 中 浩 (釧路市立東中)	秋 野 隆 (釧路市立鳥取西中)		
		古 畑 禎 子 (釧路市立新川小)	阿 部 考 彦 (釧路市立武佐中)		
会 計 部	部 長	佐々木 禮 子 (釧路市立朝陽小)			
		長 峰 詠 子 (釧路市立春採中)			
会 場 部	部 長	清 水 幹 雄 (釧路市立桜が丘中)			
部 員		葛 西 新 吾 (阿寒町立仁々志別中)	福 岡 章 明 (釧路市立駒場小)		
		小山田 比登美 (釧路市立美原小)	黒 谷 浩 美 (釧路豊川幼稚園)		
		小 池 洋 子 (釧路町立昆布森中)	増 田 倫 子 (釧路第二豊川幼稚園)		
		和 田 達 佳 (浜中町立散布中)			
会 場 校		三 浦 茂 雄	深 谷 則 子	篠 田 春 子	飯屋崎 修
		成 田 匡 隆	田 畑 千代志	宮 下 比沙代	吉 川 涉
		鈴木 たづ子	川 口 主 紀	小 野 三枝子	福 岡 真理子
		徳 永 謙 吾	工 藤 勝 美	宮 崎 博 安	玉 井 政 博
		寺 倉 明 美			



## 第44回 全道造形教育研究大会釧路大会

発行者 大会運営委員長 稲船 正男  
大会事務局 釧路市立柏木小学校  
発行年月日 平成6年7月27日  
印刷所 釧路総合印刷株式会社  
釧路市白金町19-2 電話(0154)23-9201番

協賛名簿▶





# 第44回北海道造形教育研究大会釧路大会 協賛名簿

(順不同)

北海道拓殖銀行 札幌市中央区大通西3-7	釧路衛星株式会社 釧路町中央3-50
パブリックセンター 札幌市中央区北1条東1明治生命札幌ビル	北海道観光 釧路市寿1-12-2
サクラクレパス 札幌市中央区南4条西13-1-26	J T B 釧路市北大通9 上林ビル
ぺんてる株式会社 札幌市白石区流通センター1-4-18	須 貝 釧路市花園町3-3
東京書籍 北海道支社 札幌市中央区南6条西14-1-5	スズヤ書店 釧路市浪花町12-1-1
開隆堂札幌支社 札幌市中央区南1条西4	カトウ書館 釧路市愛国西19-10
新日本造形 株式会社 東京都中野区新井1-42-8	佐藤紙店 佐藤公二男 釧路市北大通8-1
教育出版 東京都千代田区神田神保町2-10	東 栄 堂 釧路市春採7-37-11
日本文教出版 株式会社 大阪市住吉区南住吉4-7-5	岸 印 舗 釧路市北大通11-2
和信ペイント 東京都豊島区駒込1-11-4	ど う じ ん 釧路市桜ヶ岡6-43-20
工藤写真館 工藤 壽男 釧路市南大通5-3-7	イトウ徽章 釧路市旭町26-113 くしろリバーサイドMS1F
写真のさとう 佐藤 惟忠 釧路市柳町7-22	中田スポーツ 釧路市北大通7-1
藤 プ リ ン ト 釧路市栄町10-3	スポーツハウス 釧路市北大通10
釧路総合印刷 株式会社 釧路市白金町19-2	学習研究社釧路 釧路市末広13-2太陽生命ビル6F
渡 辺 商 行 釧路市若松町9-15	協 栄 生 命 釧路市末広12-1
道 東 教 材 釧路市緑ヶ岡6-16-1	まつだ食品工業 釧路市鳥取南7-2-15
グ リ ン ク ロ ス 釧路市桜ヶ岡6-2-3	松並家具センター 釧路市北大通3-75
大 伸 釧路市新釧路町3-17	学校給食パン工業 協同組合 釧路市鳥取南5-1-4

(順不同)

石井裕二 釧路市富士見 3-6-14	三原製麵所 三原萬之丞 釧路市北大通 3-7
ささき画廊 佐々木善市 釧路市北大通 8-1	恩田塗装 恩田 哲史 釧路市北大通 4-6
日進堂書店 月館 稔 釧路市北大通13-2	太平洋病院 渡辺 一 釧路市春採 7-9-9
釧路市民生協 釧路市桜ヶ岡 5-9-19	清水病院 清水 幸彦 釧路市桜ヶ岡 8-1-2
きりんや 釧路市美原 4-1-32	渡辺医院 渡辺 高明 釧路町曙 3-11-4
釧路トヨタ桜ヶ岡 釧路市桜ヶ岡 4-6-2	釧路皮膚科 クリニック 釧路市愛国西 1-5-8
トヨタピスタ釧路 株式会社 釧路市鳥取大通 4-16-5	足立皮膚科 泌尿器科医院 釧路市未広町 8-11
J R 旅行センター 釧路市北大通14	足立泌尿器科 クリニック 釧路市光陽町 5-10
阿部新聞店 釧路市黒金町14-9	釧路脳神経外科 齊藤 孝次 釧路市芦野 1-27-1
学習塾あすなろ会 種村 寿人 釧路市鶴ヶ袋 3-3-24	釧路第一病院 柴田龍太郎 釧路市鳥取大通 4-11-10
十條サービス センター 釧路市鳥取大通 2-2-8	加勢内科 釧路市若竹町14-5
和商 釧路市黒金町13-25	長内外科 釧路市春日町10-1
サカエヤ菓子店 釧路市南大通 2-2	林田歯科医院 林田 定昭 釧路市錦町 3-1
三ッ輪商会 釧路市南浜町 2-4	佐竹耳鼻咽喉科 医院 釧路市共栄大通 7-2-5
釧路博善社 釧路市旭町21-6	伊藤歯科 釧路市鳥取大通 1-1-18
萬木建設 釧路市住之江町 8-7	真木内科医院 真木 常雄 釧路市錦町 5-2-9
キャンパスまると 釧路市北大通 4-6	漢方あしの薬局 釧路市芦野 2-1-10
N E C 釧路支店 釧路市大町 1-1-1	菅野薬局 釧路市白金町22-22

(順不同)

竹 老 園	伊藤 正司 釧路市柏木町 3-19	村 上 金 物 店	釧路市北大通 3
ウロコボシ 株式会社	釧路市新富士町 5-3-18	パシフィック ホテル	釧路市栄町 2-6
釧路自動車販売店 協会	釧路市鳥取大通 6-1-1	広 瀬 書 店	標茶町富士町
大 栄 舗 道	釧路市材木町15-17	株式会社万年喜堂	標茶町川上町
長 崎 屋	釧路市幸町14	まつもと文具店	標茶町川上町
ピーターパン	釧路市愛国東 4-3-10	理容・美容 creaitos ハニー	釧路市晩町 4-23
丸 善 家 具	釧路市南大通 7-1-8	株式会社杉山商会	釧路市愛国西 1-20
サンフラワー	釧路市末広 2-9	石 井 電 工	石井裕二 釧路市富士見 3丁目 6番14号
夢 人	釧路市栄町 4-2	いとう薬局	釧路市春採 2丁目29
チェイサー	釧路市栄町 2-13	小 島 病 院	釧路市白樺台 2-25-1

## 北 海 道 造 形 連 盟 協 賛 会 員

会 社 名	代表者名	所 在 地
KKサクラクレバス札幌出張所	木塚 正雄	064 札幌市中央区南4条西13丁目
べんてる KK 札幌支店	白樺山 傑	003 札幌市白石区流通センター1丁目4-18
開隆堂出版 KK 北海道支社	鎌田 勝司	060 札幌市中央区南1条西4丁目 日の出ビル内
東京書籍 KK 北海道支社	塚本 国樹	064 札幌市中央区南6条西14丁目1-5 東書ビル内
日本文教出版 KK 札幌出張所	中元 忠	001 札幌市北区新琴似9条12丁目1-1
野 幌 陶 芸 社	野田 慎二	069 江別市野幌9-13
文学堂製筆 KK 札幌店	向久保 誠	062 札幌市豊平区平岸5条9丁目
セメダイン通商 KK 札幌店	熊谷 建基	060 札幌市中央区北7条西25丁目 協栄生命札幌西ビル内
コニシ KK 札幌支店	加藤 敏文	063 札幌市西区琴似1条5丁目 札幌松井ビル内
寺西化学工業 KK (ギター)	渋谷 幸時	162 東京都新宿区富久町1-11

祝

第44回全道造形教育研究大会

釧路大会

日 文

日本文教出版株式会社北海道出張所

札幌市北区新琴似9条12丁目1番1号 (電話) 011-764-1201 ☎001

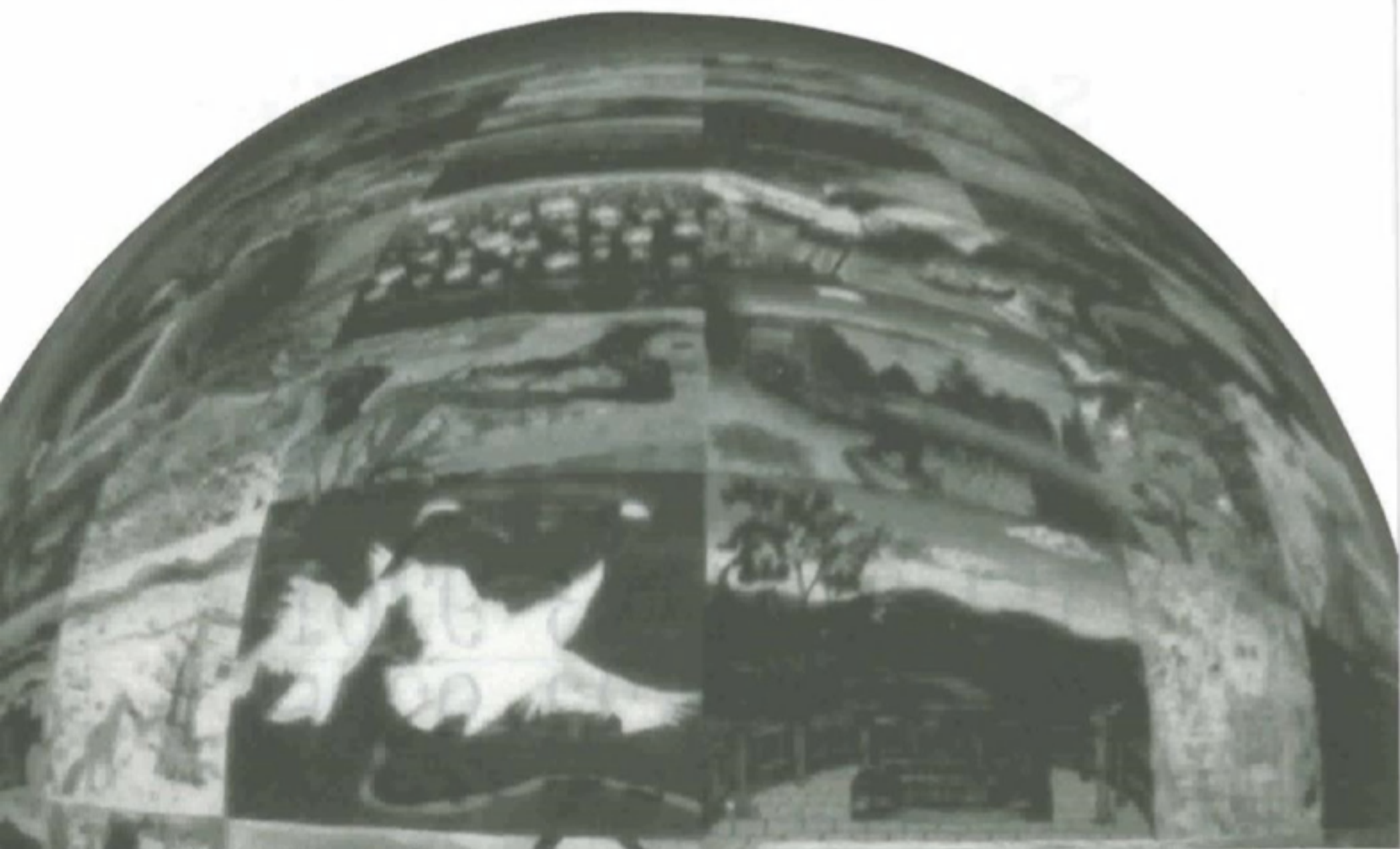


本 社 大阪市住吉区南住吉4-7-5 (電話) 692-1265 ☎558

東京支社 東京都中野区新井1丁目2番16号 (電話) 3389-4611 ☎165

地球は、  
こどもたちの未来で  
できている。

あなたの街で、  
大切に育みたい明日があります。  
すこやかな夢のいつも身近に——。  
たくぎんです。



●写真：「'93ラムサール条約創路会議記念 児童生徒絵画展」より



こまやかな おつきあい  
**たくぎん**  
北海道拓殖銀行

## 図画工作テーマビデオ

●全8巻

(●印は新版)

VHS

定価各17,895円(本体17,180円)

- ①水さいえのぐのつかい方ーたのしいかき方ー
- ②うごくおもしろさのかみこうさく

定価各18,000円(本体17,476円)

- ③紙を生かして
- ④道具をじょうずに使うー段ボールなどー
- ⑤道具をじょうずに使うー木ー
- ⑥木版画を知ろう
- ⑦こんな木版画もできるよ
- ⑧絵の鑑賞はどうするの

## 図画工作教授用掛図1~6

●全6巻/各16枚入

定価各20,000円(本体19,417円)

A全判(841×594mm)。教科書の中から題材を取り上げました。

## 図画工作鑑賞指導資料

●低・中・高学年/各24枚 定価各20,000円(本体19,417円)

A2判(420×594mm)。日本・西洋の名画

## 美術テーマビデオ

●全3巻

- ①木に語りかける
- ②木から形を生み出す
- ③塗装

VHS

定価各18,000円(本体17,476円)

## 美術の表現と鑑賞

定価700円(本体680円)

A4判 152ページ 4色刷

## 日本・西洋の美術

B5 定価520円(本体505円)

## 美術ハンドブック

B5 定価520円(本体505円)

本社/〒113 東京都文京区向丘1-13-1  
☎03(5684)6118(販売)

# 開隆堂

北海道支社/〒060 札幌市中央区南1条西4丁目  
日の出ビル6F ☎011(231)0403

SŌGŌ KUSHIRO  
PRINTING

- 頁物印刷/記念誌・文集・自費出版・生徒会誌
- 商業印刷/チラシ・ポスター・会社案内
- 実用印刷/一般伝票・ハガキ・封筒
- 新聞印刷/社内報・学校新聞

知性と工夫で勝負する情報集団

# 釧路総合印刷(株)

〒085 釧路市白金町19-2

TEL 0154・23・9201

FAX 0154・23・9205

学習参考書・教育用品

# (有) 道東教材

TEL (0154) 46-2701

FAX 46-4150

釧路市緑ヶ岡 6-16-1

## 旅、こころ

パッケージツアーはもちろん、お客様のニーズにお応えしたオーダーメイドの旅まで、旅のことならなんでもそろっています。

私たちは、旅する人の心を大切に、もっと楽しい旅をお届けします。

旅する人の気持ちで…新しいJTB。



For Your Travelife

**JTB釧路支店**

釧路市北大通9丁目(上林ビル)  
TEL 0154(22)9181



マルチメディアのNEC



●写真はPC-9821 Ce2 model S2です 画面はハメコミ合成です



98マルチは、遊びも仕事も、勉強も、これ1台。



98マルチなら、人の声で入力できるし、98マルチもしゃべる。

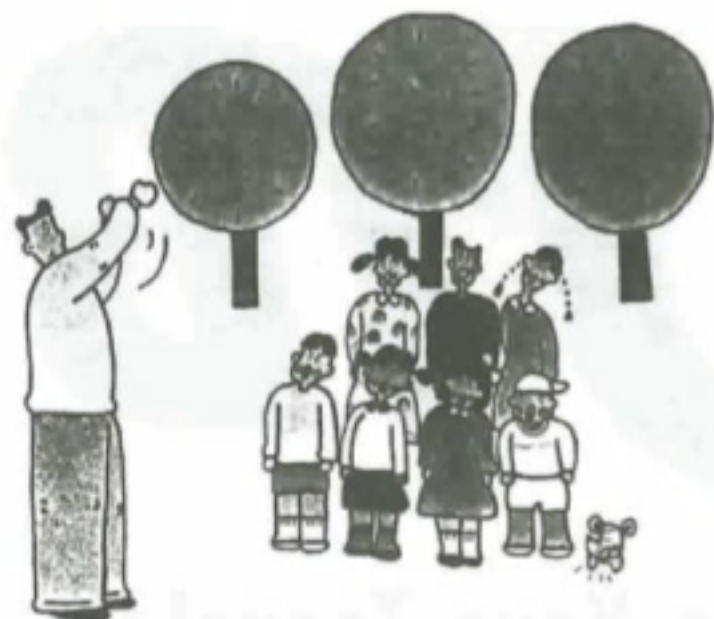
# 98MULTI

(身近な98マルチ)PC-9821 Ce2 model S1 S2 S2D.....標準価格 298,000円から(税別)  
(ハイ 퀄리티な98マルチ)PC-9821 Cs2 model S2 S3.....標準価格 428,000円から(税別)

お問い合わせは、北海道支社(011)231-0161 旭川支店(0166)25-3716 函館支店(0138)52-1177 苫小牧支店(0144)36-2511  
最寄りのNECへ。釧路支店(0154)43-2255 帯広支店(0155)22-8288 オホーツク支店(0157)25-0011 NECグループ

# NEC

# スグ、スグ、スグ、スグ、 楽しい。できる。



私たちは  
新しい教育環境づくりを  
応援します。

NEC 販売取扱店



## MITSUWA

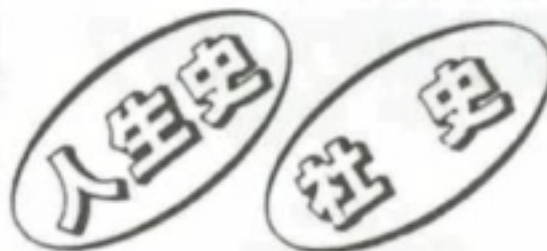
### 株式会社 三ッ輪商会

情報事業部：釧路市大町1丁目1番1号 〒085  
道東経済センタービル8F  
TEL(0154)42-3907ℓ FAX(0154)42-3908  
本社：釧路市南浜町2番4号 〒085  
TEL(0154)24-2121ℓ

●気軽に出来る

人生の一コマを本にして

# 自費出版



## 99,800円からお受けしています。

(文庫本判100頁並製本仕様100冊の例)

詩歌集・自叙伝・同人誌・体験記・研究論文  
写真集・記念誌・ダイジェスト版

釧路市栄町10丁目3

定評ある  
本づくり

# (有) 藤プリント

☎(0154)22-9311  
FAX(0154)23-7466

## 無害安全な 和信の 学校教材用塗料

学校教材用のカタログを用意しております  
右記へご連絡ください

水溶性つやだしニス  
水溶性つや消しニス

万能工作カラー  
水性エナメルZ(特許品)

ワシンステンド

特性ラックハケ

**W 和信ペイント(株)** 東京サービスセンター  
〒170 東京都豊島区駒込1-11-4 ☎03(3942)9111

内田洋行(ウチダ)一般教材・理科教材  
誠文社(ヒシエス)一般教材・理科・図工教材  
美術出版社・バジコ・新日本造形・日本教材・岡田金属  
文漢堂(テスト)・キクイチ(電気教材)・タケダ産業

株式会社 **BREX CROSS** 教育百貨(原始から原子まで)

# ブレックロス

釧路店

釧路店長 小林 茂

釧路市桜ヶ岡6丁目2番8号 ☎91-6188

グループ店 函館・室蘭・苫小牧・旭川・札幌



平日/午前9時30分～午後5時30分  
本曜・土曜日/午前9時30分～12時30分  
日・祝日/休診

## 釧路皮膚科クリニック

皮膚科 形成外科

院長/足立功一  
釧路市愛国西1丁目5番8号  
TEL37-6120・FAX38-8262



平日/午前9時～午後5時  
本曜・土曜日/午前9時～午後9時30分  
日・祝日/休診

## 足立皮膚科医院

皮膚科 泌尿器科

入院・手術応需  
名誉院長/足立 功  
院長/足立柳理  
釧路市末広町8の1(東映劇場隣)  
TEL23-8136・FAX25-2381  
P駐車場完備



## 足立泌尿器科クリニック

入院・手術応需  
院長・医学博士  
足立 祐二  
釧路市光陽町5番10号 TEL22-7077・FAX22-3033  
(光陽小学校向)  
診療科目/泌尿器科・人工透析  
診療時間/月水金 9:00～17:00  
火木土 9:00～12:00  
(火木の午後は手術日)  
日・祭日休診



オホーツク海の  
とれたて鮭を使用。

お寿司、サラダに  
塩分ひかえめ  
鮭フレーク  
100g入

真心こめたまつだの弁当・折詰

手づくりの美味しさ 多少にかかわらず  
ご注文下さい。

☎52-3321

まつだ

仕出し・折詰  
弁当の

釧路市鳥取南7丁目2番15号

地球をまわろう……

# 衛星バス(株)

FAX(0154)40-3142 ☎(0154) 40-3131

●本部教室●

釧路市新1-3-24 ☎(0154)40-1119

●札幌本部教室●

札幌市中央区南13条西22丁目2-10 ☎(011)53-1115

●旭ヶ丘教室●

札幌市中央区南13条西22丁目2-10  
旭ヶ丘ビル3F(エプソンビル3F)

家族の大切なおひとりを  大きな心でお預りします。

## 学習塾 あすなる会

●春採教室●

釧路市桜ヶ岡1-10-33 ☎91-5522

●愛国教室●

釧路市愛国西1-1-10 ☎37-8160

●鳥取教室●

釧路市鳥取大浜4-13-2 ☎53-1171

●曙教室●

釧路市北都2-6-6 ☎37-1119

エリアスクール 開基教室 (みのり商店1F) 月曜朝10時25分地 白根教室 (橋北中央委員会) 白根町西4条北1丁目 橋本教室 (今野時計店隣) 橋本町南 湯天教室 (旭地区会館) 朝陽町西1-42-47 旭路教室 (大車方) 西原町南1条北3丁目

いい街・いい人・いいお店



特定建設業

**萬木建設株式会社**

MANBOKU CONSTRUCTION CO.,LTD

〒085 釧路市住之江町8番7号

TEL 0154-23-6793 FAX 0154-23-6796

キャンパスライフを  
支えて10年。  
いつでもおまかせ  
下さい！



**キャンパスまると**

**ト北村2階スクールコーナー**

〒085 釧路市北大通4丁目6番地 TEL0154・31-1022



**大栄舗道株式会社**

085 釧路市材木町15番17号

電話(0154)42-1435番

星が浦事業所 084 釧路市星が浦南3丁目3番地

電話(0154)52-4560番

★創業80年の技術と信用★  
スタジオ写真・御婚礼写真・各種記念写真

# (株) 工藤写真館

(大駐車場完備) 釧路市南大通5-3-7 ☎41-5751 FAX 41-5780  
末広町2-23 フォトサロン工藤 ☎25-8521  
カメラの工藤 ☎24-4714 FAX 23-0125

理容・美容

# Creaitos / ニー

本店 / 釧路市暁町4番23号 ☎24-5652  
パートII / 釧路市中園町7番12号 ☎25-6070

祝 第44回全道造形教育研究大会



株式  
会社

# 杉山商会

釧路店 / 釧路市愛国西1丁目20番12号 ☎(0154)37-3111(代) FAX (0154)37-3116  
本社 / 帯広市西9条南14丁目 ☎(0155)23-3155(代) FAX (0155)26-3116



# 中田スポーツ

本店

鳥取店

釧路市北大通7-1  
☎23-3536 定休日/月曜日  
平日AM10:00-PM7:30 日祝AM10:00-PM7:00

釧路市鳥取大通4-5  
☎53-2266 定休日/月曜日  
平日AM10:30-PM8:00 日祝AM10:30-PM7:30

# 株式 石井電工

代表取締役 石井 裕二

釧路市富士見3丁目6番14号

焼きたてパンの店



ピターパン

釧路市愛国東4丁目3-10  
TEL 37-5679

くしろ愛菓 湿原の貴婦人  
くしろ愛菓 釧路夜景



釧路市愛国東4丁目3-10 TEL 36-1562

スナック

サンフラワー

釧路市末広2-9 ☎0154-25-8772

版画プレス機  
各種美術材料

新日本造形株式会社

東京本社 〒165 東京都中野区新井1-42-8  
電話 03(3389)1221(代表)  
大阪支社 〒537 大阪市東成区神路1-10-6  
電話 06(974)5111(代表)

北海道の発展と  
快適な社会生活の創造に関する諸活動

株式会社 パブリックセンター  
〒060 札幌市中央区北1条東1丁目 明治生命札幌ビル

電話 (011) 281-5545(代表)  
222-6868(6F)

学校アルバム・スタジオ撮影  
出張撮影・DPE・証明写真

写真のさとう



〒085 釧路市柳町7-22

TEL 0154-25-1488  
FAX 0154-23-3370



P 物でお越しのお客様は中車スペースの駐車を必ずご用下さい。



SATOH  
YAMAICHI  
佐藤紙店

釧路市北大通5丁目(通商ビル前)  
☎0154-22-1311  
FAX 0154-22-0575

営業時間/9:30am~7:00pm  
休日/10:00am~7:00pm・毎週日曜定休

釧路 根室 北海道書道用品研究会会員

—まごころをこめて御奉仕いたします—

★書道用品専門店★

# 東榮堂

〒085 釧路市春採7丁目37番11号 ☎(0154)46-7077  
(臨港鉄道春採駅バス停前)

# 松並家具センター

釧路市北大通3丁目 ☎(代)23-2536

北海道学校給食会指定工場

## 釧路学校給食パン工業 協同組合

理事長 佐藤輝治

釧路市鳥取南5の1の4 ☎51-2311-2

絵画・額縁・画材・貸画廊・アーティーギフト

# 株式会社 ささき西麻

釧路市北大通8-1 TEL(0154)22-1033・FAX(0154)22-3200  
営業時間/AM10:00~PM7:00 定休日 毎週木曜日

1F

書籍・雑誌

2F

画材・ギャラリー・カルチャー教室



# 日進堂書店

営業時間 AM10:00~PM9:00  
2F AM10:00~PM7:00

釧路市北大通13丁目 TEL 23-8234

EVERYDAY LOWPRICE

きりんやは、いつも皆様の「幸せな生活」のお役に立ちたいと願っております。



おしゃれショップ

# きりんや

■愛国本店/釧路市愛国東2の11の15 ☎37-0004 代  
■鳥取店/釧路市鳥取北5の4の1 ☎53-3144  
■美原店/釧路市美原4の1の32 ☎37-3000  
■星が浦店/釧路市星が浦北1の3 ☎52-4141



楽しい旅行のお手伝い!

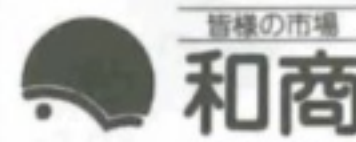
海外旅行・JRきっぷ・航空券  
ホテル券などのお申し込みは

## JR旅行センター釧路支店

☎(0154) 22-2865  
24-3177

年中無休 日曜・祝日も営業

ここには対話がある。  
見て選ぶ楽しみがある。  
そして新鮮である。



皆様の市場

# 和商

釧路市美原4-13-25 0154-23-2225

●御料菓 釧路湿原銘菓

かる〜い甘さで ついもうひとつ

原野のてしと

 **サカヤ**

北海道釧路市南大通2 ☎0141-2121

葬祭一式・慶弔花輪・生花他



有限会社 **釧路博善社**

代表取締役 恩田 高治

釧路市旭町21番6号  
FAX 24-2202

☎24-2532 (代)



さわやかな環境の提案

“塗料”は物を長持させる最も簡単で  
経済的な方法である。

**恩田塗料株式会社**

代表取締役 恩田 哲史

本社 / 釧路市北大通4丁目6番地  
TEL(くしろ)22-8454  
FAX(くしろ)22-3847  
札幌営業所 / 札幌市白石区東札幌5条5丁目1の9  
TEL(さっぽろ)821-1307  
FAX(さっぽろ)821-1309

診療科目 内科・呼吸器科・消化器科・小児科・整形外科  
基準看護・訪問看護・各種人間ドック・駐車場完備

**太平洋病院**

院長 渡辺 一

〒085 北海道釧路市春採7丁目9番9号 Tel(代)0154)46-3162

精神科・神経科

**清水桜が丘病院**

病院長 清水 幸彦

釧路市桜ヶ岡8-1-2 ☎0154-91-6011



救急病院・脳の間人ドック

医療法人 孝仁会

**釧路脳神経外科病院**

院長 齋藤 孝次

☎(0154) 37-5512 (代)  
釧路市戸野1丁目27-1



**加勢内科医院**

加勢 一夫

釧路市若竹町14の5 ☎(22)8281番



## 標茶町

書籍・雑誌・教科書  
学校教材教具・事務機器・文具  
北海道新聞販売店

# 広瀬書店

北海道川上郡標茶町富士町(〒088-23)  
TEL (01548) 5-2 0 6 1  
FAX (01548) 5-2 0 7 4  
支店 BOOKS キョーエー店(標茶町旭町30番地)

株式会社 **内田洋行** 教育システム事業部特約店  
スポーツ用品各種・遊具・体操用器材・釣具  
文房具・事務機器

# (株) 万年喜堂

標茶町川上町 ☎(01548)5-2219

文房具・事務用品・事務機器

# 文具のまつもと

代表 松本 美代子

川上郡標茶町川上町  
☎(01548)5-2553番

# いとう薬局

薬剤師 伊藤嘉奈子

釧路市春採2丁目29  
電話 41-8432

教育用家具備品を通じて地域に貢献する  
(株)市村製作所・釧路根室地区総代理店

# 株式会社 丸善家具

釧路市南大通7丁目1-8 TEL 41-3447  
FAX 41-3459

スナック

# 夢人

釧路市栄町4-2 ☎0154-24-8754

スナック

# チェイサー

富樫京子

釧路市栄町2丁目13番地 有楽街センター  
☎25-4949

——診療科目——

内科・外科・整形外科  
基準看護・訪問看護・各種人間ドック

# 釧路第一病院

院長 柴田 龍太郎  
副院長 相星 市郎  
釧路市鳥取大通4丁目11-10 TEL ☎0154-51-2121

